

執達吏用書式

一七四

此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ)(閱覽セシメ)シ處「某」ハ承
諾ノ上記名調印シタリ

債務者

「某」

關係人(親屬證人ノ類)

「某」

此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所

「某」

明治年月日

執達吏

「某」

明治年月日午前(後)時競賣施行ニ先チ競賣スヘキ物ト

差押調書ニ添附シタル差押財産目錄トヲ比照シタルニ

「何」ハ見當ラス(毀損シタリ)

區裁判所

明治年月日

執達吏

「某」

「印」

書式甲第一號添附

差押 財産 目錄 第 號	番號	物件ノ表示	員數、尺 度重量	見積代價 封印、他 目又ハ他 ノ方法	備考
	壹	雞 卵	何 箱	金何圓	「何」 「腐敗物」
	貳	春蠶種紙	何 枚	金何圓	「何」 「期節物」
	參	金時計	壹 個	金何圓	「封印」

書式乙第一號民訴(五四〇)(五六六、五八六)

有体動産差押調書

府縣郡市町村番「職」

債權者番「某」

執達吏用書式

一七五

手數料

職年號

合信金

及立替
金
合計金

府縣郡市町村番「職」
請求金額
「某」

一金

合計金

訴訟費用

右金額ハ明治年月日ノ(裁判所、控訴院)ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス
明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基ク(右命令ノ正本ニ基ク)債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)出會ノ上任意辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シタリ

債務者ハ(債務者ノ「某」ハ)「支拂ヲ爲ス資力ナキ旨ヲ」陳述シタリ

執達吏「某」ハ他ノ債權者ノ爲メ既ニ債務者ノ財産ヲ差押ヘタルヲ以テ其差押調書ノ閲覧ヲ求メ前記請求金額并ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ別紙目錄ノ通り未タ其差押ニ係ラサル財産ヲ差押ヘタリ
右差押物ハ悉皆之ヲ占有シ執達吏「某」ニ交付シタリ(債權者ノ承諾ニ依リ)(運搬人ニ差支ヘタル債權者ニ依リ)封印ヲ爲シ、標目ヲ付シ、公示書ヲ貼附シ、債務者ノ保管ニ任セタリ
差押物ノ占有ハ執達吏「某」ニ移リタルヲ以テ債務者ハ之ヲ處分スヘカラス若シ之ヲ處分シ又ハ封印、標目、公示書ヲ破毀スルトキハ刑罰ニ處セラルヘキ旨ヲ債務者

執達吏用書式

執達吏用書式

一七八

一(債務者ノ「某」ニ)諭告シタリ
 明治年月日午前(後)時差押ニ着手シ同ハ其時ニ之ヲ完
 結シタリ
 口頭ヲ以テ(調書ノ謄本ヲ送達シテ)差押ヲ爲シタル旨
 債務者ニ通知シタリ
 此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ)(閱覽セシメ)シ所「某」ハ承
 諾ノ上記名調印シタリ
 債務者「某」「印」
 關係人(親屬證人ノ類)「某」「印」
 此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ
 區裁判所
 明治年月日 執達吏 「某」「印」

書式丙第一號(民訴五四〇、五八六)

簿年號

手數料及立替

金

合計金

照 查 調 書
 府縣郡市町村番「職」
 債權者「某」
 債務者「某」
 請求金額
 右金額ハ明治年月日(裁判所控訴院)ノ判決(執行命令)
 及明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債
 務者ノ辨濟ス可キモノトス
 明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基テ(右
 執達吏用書式)

一七九

執達吏用書式

一八六

田畑ニ公示札ヲ建テ其菓實ハ差押物ナルコトヲ示シ
 「某」ノ保管ニ任セタリ
 差押菓實ノ占有ハ執達吏ニ移リタルヲ以テ債務者ハ之
 ヲ處分スヘカラス若シ之ヲ處分シ又ハ公示札ヲ破毀ス
 ルトキハ刑罰ニ處セラルヘキ旨ヲ債務者ニシテ債務者ノ
 「某」ニ諭告シタリ
 明治年月日午前(後)時差押ニ着手シ同(差)時之ヲ完結
 シタリ
 口頭ヲ以テ(調書ノ謄本ヲ送達シテ)差押ヲ爲シタル旨
 ヲ債務者ニ通知シタリ
 此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ閱覽セシメ)シ處「某」ハ承諾
 シ上記名調印シタリ
 債務者
 「某」
 「印」

職年號
 手數料
 及立替
 金
 合計金

關係人(親屬証人ノ類)「某」
 「印」
 此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ
 區裁判所
 執達吏
 明治年月日
 「某」
 「印」
 書式第二號(民訴五四〇、五六八)
 蠶差押調書
 府縣郡市町村番「職」
 債權者
 府縣郡市町村番「職」
 債務者
 請求金額
 訴訟費用
 一八七

合計金

合計金

金
立替
手廻

辨
年
計

右金額ハ明治年月日(裁判所控訴院)ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨済ス可キモノトス

明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本(右命令ノ正本)ニ基ク債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者(債務者ノ「某」)ニ出會ノ上任意辨済ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シタリ

債務者(債務者ノ「某」)ハ「支拂ヲ爲ス資力ナキ旨ヲ」陳述シタリ

依テ前記金額並ニ強制執行費用ノ辨済ニ充ツル爲メ左ノ場所ニ於テ債務者所有ノ蠶ヲ差押セタリ

府縣郡市町村番人(辨済捕人) 養蠶所

同 同

何 何

差押ヘタル(春夏)蠶ノ概量

收穫豫定期日 月 日

此見積賣得金

公示書ヲ「某所」ニ貼付シ蠶ハ差押物ナルコトヲ告示シ

「某」ノ保管ニ任セタリ

差押ヘタル蠶ノ占有ハ執達吏ニ移リタルヲ以テ債務者

ハ之ヲ處分スヘカラス若シ之ヲ處分シ又ハ公示書ヲ破

毀スルトハ刑罰ニ處セラルヘキ旨ヲ債務者(債務者

ハ「某」ニ諭告シタリ

明治年月日午前(後)時差押ニ着手シ同 時之ヲ完結

執達吏用書式

合信金

合計金

金

立替

手選料

手選料

右金額ノ辨濟ニ充ツル爲メ明治年月日「某所」某新聞ニ掲載セシ公告ノ通り別紙目錄ニ記入シタル差押物ヲ競賣ニ付シタリ

「某」

臨場競買人ニハ左ノ條件ヲ告知シタリ

一 競落ハ最高競買價額ヲ三回呼上ケタル後ナルコト

一 競落物ハ代金ト引換ノ上引渡ス可キコト

一 最高價競買人ハ競賣期日ノ終ル前ニ代價ヲ支拂ヒ競買物ノ引渡ヲ求ム可シ

（競買人ハ月日限り代價ヲ支拂ヒ競買物ノ引渡ヲ求ム可シ）若シ此條件ヲ

履行セサルトキ更ニ其物ヲ競賣ニ付ス可キコト

一 最高價競買人ハ再度ノ競買ニ加ハルコトヲ得ス且

其競落代價最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ其不足

右ノ告知ヲ爲シタル後競買ヲ催告シタリ

各競賣物ノ價額ハ別紙目錄ニ記入シタル最高價ノ申出

アハタル後三回之ヲ呼上ケタルモ更ニ高價申出人ナキ

ニ依リ「某」ヲ以テ競落人ト定メタリ

競落人ハ競買物ノ代價ヲ支拂ヒタリ「場合」ニヨリ此記

入ヲ要セス

競賣得金ノ計算ハ左ノ如シ前ニ懸掛シタルニ対シ

一金

賣得額

競賣費用

差引金

債權者「某」ニ渡ス

執達吏用書式

一金

債務者ニ送還ス

右調書ハ讀購々(又ハ閱覽セシメ)タル處最高價申出人承諾ノ上記名調印セリ

年月日

賣出某「印」

(最高價申出人ノ期日ノ終ル前ニ退場シタルニ依リ記名調印セシムルコトヲ得ス)

此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノト對合ニヨリ此書ニ於テ「某」マシテ「某」區裁判所

明治年月日(回々)「某」區裁判所 執達吏「某」出印

書式第五號添附(民訴五四〇、五七七)

競賣	番號	差押調	競賣物	見積	最高競	最高競	備考
		書番號		代金	賞借額	買人	

物目録

「何」	「圓錢」	「圓錢」	「某」	「代價支拂濟」
-----	------	------	-----	---------

書式第六號(民訴五九三)

年號

手數料及立替

金立替

會計金

右ハ府縣郡市町村番債務者(某)所有ノ差押物、賣得金(差押金錢)ニ有之候處其債權者ヲ満足申出ムルニ足ラス且債權者間ノ配當協議調ハナルニ依リ大藏省預金局(何地何金庫)ニ供託候條別紙證明書類相添へ此段及御届候也

明治年月日 區裁判所 執達吏 「某」 「印」

區裁判所御中

職年號

手數料及立替

金立替

合計金

民事訴訟法第七號(民訴五四〇、七三〇)

府縣郡市町村番「職」

債權者「某」

債務者「大瀧某實金」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

執達書用書式

明治年月日

區裁判所

執達吏

「某」

一九七

債務者「(債務者)「某」(「何」)引渡ヲ爲ス

依テ債務者所有ノ倉庫(某所)ニ於テ前記ノ「何何個」ヲ

取上ケ債權者(其代理人「某」)ニ引渡シタリ(運搬人ニ

差支タルヲ以テ「某所」ニ貯藏シ封印ヲ付シタリ)債權

者ノ爲メ「某所」ニ輸送シタリ

明治年月日午前(後)時右ノ手續ニ着手シ同 時之ヲ

完結シタリ

此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ閱覽セシメ)シ處「某」承諾

ノ上記名調印シタリ

此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所 日 年 號

書式第八號(民訴五四〇、六六七)

此開書ハ「不動産競買調書」

府縣郡市町村番「職」某「明」

差押債權者「某」

府縣郡市町村番「職」某「本藩

債務者「某」

開書の日請前求對金額ノ額、手續ニ着手シテ同「明」

金、爲メ「某」ニ對シテ「明」ニ對シテ「明」

金、爲メ「某」ニ對シテ「明」ニ對シテ「明」

金、爲メ「某」ニ對シテ「明」ニ對シテ「明」

金、爲メ「某」ニ對シテ「明」ニ對シテ「明」

右金額ノ辨濟ニ充ツル爲メ明治年月日當區裁判所及ヒ

「何」(市町村)ノ揭示板并ニ明治年月日「某」新聞紙ニ

掲載セシ公告ノ通り左ノ

何縣何郡何村字何番地
田何町何反何畝何歩

ノ競賣期日ヲ開キ以下ノ手續ヲ履行シタリ

一 執行記録ハ各人ノ閱覽ニ供シタリ

一 (特別賣却條件)

ヲ告知シタリ

一月日午前(後)時競買價額ノ申出ヲ催告シタリ

一 別紙競買申出人氏名價額目錄ノ通り競買ノ申出アリ

タリ(相當ソ競買ヲ申出シルモノナキヲ以テ其競買

ヲ許サス)

一 競買人「某」ハ「某」ノ申立ニ因リ現金(公債證書株券)

ニ付金「某」ヲ保証立テタリ(競買人「某」ハ「某」

競買用書式

ノ申立アルモ保証ヲ立テサルモ因其競買ヲ許サ
 一「某」ヲ以テ最高價競買人ト定メ其氏名並ニ最高價額
 ヲ呼上ケタル後買月申日午前(後)七時競買其終局
 告知シタル
 右調書ハ左ノ利害關係人承諾ノ上記名調印セリ
 最高價競買人
 差押債權者
 債務者
 「某」 「某」 「某」 「印」 「印」 「印」
 (「某」ハ調書作成前退場シタルモ依リ記名調印セシム
 ルヲ賣得ス) 用キ以テ手辦マシム
 此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ
 區裁判所
 明治年月日
 執達吏
 「某」 「印」

書式第八號添付

競買申出人氏名

第號	競買申出人氏名	住	所	競買價額
一	「某」	府縣郡市町村番	「何圓錢」	
二				
三				

書式第八號(另編一四五、一四八)

書式第九號(民訴一四五、一四八)

送達告知書

送達告知書
原告「某」被告「某」間ノ「某」事件ニ關スル「何」(狀書)「某」(市町村)長ニ預置候間速ニ受取可申候也

明治年月日

區裁判所
執達吏

「某」 「印」

◎執達吏事務統計年表様式

(明治二十八年三月司法省
民刑甲第一五五號訓令)

明治何年分

書力事人張添林

執達吏事務統計年表
自第一表
至第四表

某區裁判所

凡例

一 本表ハ一ケ年間執達吏ニ於テ取扱タル事務ノ成績ヲ掲クルモノトス
一 本表ハ各執達吏ヨリ差出サシメタル材料ニ依リ管轄區裁判所ニ於テ調製スヘキモノトス

送達		執行				事務ノ種類		某區裁判所			
刑	民事	假差押及假處分	物ノ引渡又ハ明渡	不動産及船舶ニ對スルモノ	債權其他ノ財産權ニ對スルモノ	有体動産ニ對スルモノ	舊受	新受	合計	終局	未終局
							何件	何件	何件	何件	何件

拒絕證書作成	罰金科料過料ノ徵收及沒收物品ノ行上若クハ賣却	其他ノ事務	計

執達吏事務第二表		某區裁判所	
債權額ノ區別	件數	債權額	圓
債權額五圓マテ	何件	何	
同五圓以上十圓マテ			
同十圓以上二十圓マテ			

合	手 數 料	送達 旅費 計		其他職務上ノ收入
		旅費	計	
同				
同				
同				
同				
同				

◎同上調製方質疑回答ノ件(摘要) (明治二十八年六月司法省民刑甲第四三三號)

一 第一表ノ件數ヲ記入スルニハ一人ノ債權者ヨリ連帶債務者數名ニ對スル執行ハ一名宛ニ調書ヲ作ルト雖モ一件トシテ記入スヘキモノトス

一 第一表中(其他ノ事務)ノ欄ニハ同表上段ニ列記セル以外

ノ事件即チ告知催告其他裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ取扱タル事務ノ件數ヲ合載スヘキモノトス

一 第一表中(不動産及船舶ニ對スルモノ)ノ欄ニハ民事訴訟法第六百五十九條第二項ニ依リ執達吏ノ取扱ヒタル不動産競賣事件ヲモ記入スヘキモノトス

一 第二表ニハ第一表第一號(有体動産ニ對スルモノ)ノミノ結果ヲ掲クヘキモノトス

一 第二表ハ差押後競賣ニ至ラサル間ニ取下ケタル分ヲモ記入スヘキモノトス

一 第二表中(執行ニ關スル費用額)ノ欄ニハ執達吏カ獨立ノ執行機關トシテ執行ヲ爲シタルニ付キ要シタル總テノ費用ヲ掲クルモノトス但不動産競賣等ニ關スル費用ハ執行裁判所ノ費用トシテ調査スヘキモノニ付之ヲ算入セス

- (第四表ニ限リ算入スヘキハ勿論ナリ)
- 一 第二表ハ事件ノ新舊ヲ問ハズ總テ前年度内ニ於ケル終局件數ニ付調製スヘキモノニシテ第一表中有体動産ニ對スルモノノミノ結果ヲ掲クルモノトスニハ將監吏ハ獨立ノ
- 一 第三表ニハ第二表ニ掲クル事件ノ内執達吏ニ於テ辨償ノ處分ヲ爲シタル事件ヲミラ掲クルモノトス(各債權者間ニ配當ノ協議調フタルトキ又ハ差押金錢ヲ債權者ニ引渡シタル場合ノ類)
- 一 第三表ノ歩合ニ對スル債權額及償還額ニ關シテハ同表欄外ニ右金額ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 第二表中ノ人員ハ債權者及債務者ノ同一ナルトキト雖モ主タル事件五件ナルトキハ重複ニ拘ハラズ債權者五人債務者ト五人ト記載スルヲ要ス

- 一 同表中配當要求アリタル場合ニハ其件數ハ主タル事件ニ付著セシメ一件トシ其金額ハ主タル債權額ト合算シ相當欄ニ記入スヘキモノトス
- 一 第一表中有体動産ニ對スル強制執行ノ終局欄ニ記入スヘキ終局事件ハ配當濟ノ上終局ト爲スヘキモノトス但配當ニ付キ各債權者間ニ協議ノ調ハサルトキハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出タルトキヲ以テ終局トス(差押金錢ヲ債權者ニ引渡シタルトキハ其引渡ヲ以テ終局トス)
- 一 第一表(事務ノ種類)執行ノ欄(有体動産ニ對スルモノ)ノ件數中ニハ債權者ヨリ一旦執行力正本ニヨリ其委任ヲ受ケタル後未タ執行ニ着手セサル以前ニ在ツテ債務者ヨリ辨濟スルカ若クハ示談上委任ヲ取消タル事件モ亦執行終局ノ件數中ニ算入セラルヘキモノトス

一 第四表中(其他職務上ノ收入)欄ニハ同表上段ニ列記セル執行及送達以外ノ收入(執達吏手數料規則第十五條第十六條等)ヲ掲クルモノトス

一 罰金科料、過料ノ徵收物品ノ取上若クハ賣却ニ付テノ收入ハ第四表其他職務上ノ收入欄ヘ記入スハキモノトス

一 強制執行ニ關セサル告知及催告(執達吏手數料規則第十五條)ニ付テノ手數料ハ第四表中其他職務上ノ收入欄ヘ記入スハキモノトス

◎他ノ官吏ヨリ執達吏ニ任用セラレタル者退官賜金

及恩給年數算定方ノ件

(明治二十六年五月司法省職甲第一二八八號通牒)

執達吏ハ文官退官賜金規則及官吏遺族扶助法ノ支配外ニシテ恩給年數算定法ハ執達吏ニ任用ノ日ヨリ起算スハキモノ

ニ付他官ヨリ執達吏ニ任用セラレタルモノハ當時免官ノ上
任補セラレタル事ニ取計可有之就テハ前在官年數ニ應シ退
官賜金又ハ恩給ヲ支給セラルヘキ當然ノ義ニ付右ニ該當ス
ル者有之候ハハ請求候様御取計可有之此旨及御通牒候也
又追テ自今在官者ヲ執達吏ニ採用ノ場合ハ本屬廳ニ於テ免
官取計濟ノ上ナラテハ任補セサル義ト御心得有之度候也

◎執達吏手數料規則第十六條ノ三ノ手數料ヲ受クル場合

及ヒ宿泊ヲ要スル場合届出ノ件

(明治四十四年五月一日司法省民事第一〇三號訓令)

執達吏カ執達吏手數料規則第十六條ノ三ノ手數料ヲ受クル
場合及ヒ職務執行ノ爲メ宿泊ヲ要スル場合ニ於テハ豫メ監
督判事ノ認可ヲ受ケシムヘシ若シ其認可ヲ受クルコト能ハ
サル場合ニ於テハ事後直ニ其旨ヲ届出シムヘシ

①執達吏役場位置ノ指定又ハ同出張所ノ設置ヲ命シ
(大正三年五月一日司法省
 法務局民第六七八號訓令)
 執達吏役場位置ヲ其所屬區裁判所所在地外ニ指定シ又ハ役
 場ノ出張所ノ設置ヲ命シタル場合ハ其都度事情ヲ具シ報告
 スヘシ

◎執達吏ノ執行調書及附屬書類用紙ノ件

(大正四年一月二十二日司法
 省法務局民第一二四號通牒)
 民事訴訟及非訟事件ニ關スル用紙ハ本年四月一日ヨリ半紙
 ヲ用非ハトニ改定相成候ニ就テハ執達吏ノ取扱強行執
 行ニ競賣事件モ含ムニ關スル調書及附屬書類ノ用紙モ亦
 同科以降半紙ヲ使用スルコトニ改メラル候條右様御知相
 成度御市管内區裁判所及執達吏へ此旨御通達相成度依命此

段及通牒候也

追テ既ニ準備シアル用紙ハ其殘存スル限り使用ヲ許容ス
 其様致度爲念申添候

◎執達吏役場標札ノ件

(明治二十三年十月文
 第一一七〇號訓令)
 執達吏役場ニハ執達吏何某役場ト記セル標札ヲ掲ケシム

◎臨時執達吏認可ノ件

(明治二十五年十月參
 民第五六九號訓令)
 執達吏規則第十一條第四ニ依リ臨時執達吏ノ職務ヲ行スヘ
 キ者ヲ認可スルニハ執達吏登用規則第一條第一乃至第五及
 ヒ第二條ノ規定ヲ準用スヘシ

◎金銀有價證券ヲ供託シタル執達吏死亡等

執達吏役場標札臨時執達吏認可ノ件

○ノ執達吏之レヲ請求ヲ爲ス場合ニ於ケル通知ノ件

(明治二十五年十月司
法省訓令第九〇二號)

執達吏死亡又ハ停職免職等ノ場合ニ於テ甲執達吏ノ名義ヲ以テ供託シタル金錢及有價證券ヲ乙執達吏ニ於テ其支拂ヲ請求スルトキハ裁判所又ハ檢事局ヨリ其旨ヲ供託取扱所ニ通知スヘシ

○執達吏立替金及補助費確定書式(明治二十六年三月會
檢甲第二四一號訓令)

明治二十六年度以降執達吏立替金及執達吏補助費確定書ノ儀ハ事實及計算ヲ精密審査ノ上左ノ書式ニ依リ調製シ執達吏ニ交付スヘシ

(書式)

立替金確定書

何區裁判所執達吏某何年何月ヨリ何年何月ニ至ル立替金

額ヲ検査シ金何圓何拾錢支給スヘキモノト確定ス

深十二明 治四年五月廿日

何地方裁判所長某印

補助金確定書

何區裁判所執達吏某明治何年間ニ收入シタル手数料ヲ檢

査スルニ金何圓ニシテ不足金何圓補助スヘキモノト確定

ス

明治 年 月 日

何地方裁判所長某印

○民事訴訟法

(明治二十三年四月廿一日
法律第二十九號)

第一編 總則

第一章 裁判所

第二節 裁判所ノ土地ノ管轄(裁判籍)

第十條 人ノ普通裁判籍ハ其住所ニ依リテ定マル

普通裁判籍アル地ノ裁判所ハ其人ニ對スル總テノ訴ニ付キ管轄ヲ有ス但訴ニ付キ專屬裁判籍ヲ定メサル場合ニ限ル

第十一條 軍人、軍屬ハ裁判籍ニ付テハ兵營地若クハ軍艦定警所ヲ以テ住所トス但此規定ハ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル者及ヒ兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人、軍屬ニ之ヲ適用セス

第十二條 外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏竝ニ其家族、從者ノ裁判籍上ノ住所ハ本邦ニ於テ本人ノ最後ニ有セシ住所ナリトス此住所ナキモノニ付テハ司法大臣人

命令ヲ以テ豫メ定ムル東京内ノ區ヲ以テ其住所ナリトス

第十三條 內國ニ住所ヲ有セサル者ハ普通裁判籍ハ本人ノ現在地ニ依リテ定マル若シ其現在地ノ知レサルカ又ハ外國ニ在ルトキハ其最後ニ有セシ內國ノ住所ニ依リテ定マル

然レトモ外國ニ住所ヲ有スル者ニ對シテハ內國ニ於テ生シタル權利關係ニ限リ前項ノ裁判籍ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

第十四條 國ノ普通裁判籍ハ訴訟ニ付キ國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定マル但訴訟ニ付キ國ヲ代表スルニ付テノ規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘラルルコトヲ得ル會社其他ノ社團又ハ財團等ノ普通裁判籍ハ其所在地ニ依

リテ定マレ此所在地ハ別段ノ定ナキトキハ事務所所在ノ地トス若シ事務所ナキトキ又ハ數所ニ於テ事務ヲ取扱フトキハ其首長又ハ事務擔當者ノ住所ヲ以テ事務所ト看做ス

第十五條 生徒、雇人、營業使用人、職工、習業者其他性質上一定ノ地ニ永ク寓在ス可キ者ニ對スル財産權上ノ請求ニ付テハ訴ハ其現在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

兵役義務履行ノ爲メニ服役スル軍人、軍屬ニ對シテハ其兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ前項ノ訴ヲ起ス

第十六條 製造、商業其他ノ營業ニ付キ直接モ取引ヲ爲ス店舖ヲ有スル者ニ對シテハ其店舖所在地ノ裁判所ニ營業上ニ關スル訴ヲ起スコトヲ得

第十七條 内國ニ住所ヲ有セサル債務者ニ對スル財産權上ノ請求ニ付テハ其財產又ハ訴ヲ爲シテ請求スル物ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第十八條 契約ノ成立若クハ不成立ノ確定又ハ其履行若クハ鎖除、廢罷、解除又ハ其不履行若クハ不十分ノ履行ニ關スル賠償ノ訴ハ其訴訟ニ係ル義務ヲ履行ス可キ地ノ裁判

參加ヲ許サザル裁判確定セザル間ハ從參加人ヲ本訴訟ニ
立會ハシメ殊ニ總テハ期日ニ之ヲ呼出シ又本訴訟ニ關係
不ハ裁判ヲ爲シタカトキハ從參加人ニ其裁判ヲ送達スル
シイマ

第六十條 本訴訟告知ハ訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ其訴訟告知
ノ理由及ヒ訴訟ノ程度ヲ記載スル書面ヲ提出シ之
案爲不可

此書面ハ第三者ニ送達スルコトヲ要ス又訴訟ヲ告知スル
原告若クハ被告ハ相手方ニ其謄本ヲ送付ス可シ
申請第四節 訴訟代理人及ヒ補佐人

第六十五條 訴訟委任ハ反訴、主參加、故障、假差押若クハ
假處分又ハ強制執行ニ因リ生スル訴訟行爲ヲ併シ訴訟ヲ
關スル總テハ訴訟行爲ヲ爲シ及ヒ相手方ヨリ辨濟スル費

用ノ領收ヲ爲ス權ヲ授與ス
訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受ケルニ非ザルハ控訴若クハ
上告ヲ爲シ、再審ヲ求メ、代人ヲ任シ、和解ヲ爲シ、訴訟
物ヲ拋棄シ又ハ相手方ヨリ主張シタル請求ヲ認諾スル權
ヲ有セス

第六十九條 委任者ノ死亡、訴訟能力若クハ法律上代理ノ
變更、委任ノ廢罷及ヒ代理ヲ謝絶ニ因リ委任者消滅其
消滅ヲ通知スルマテ相手方ニ對シ其效力ハ及ビ、若シ
此通知書ハ原告若クハ被告ヨリ受訴裁判所ニ之ヲ差出シ
裁判所ハ相手方ニ之ヲ送達ス可シ
代理人ハ謝絶ヲ爲スモ委任者他ノ方法ヲ以テ自己ノ權利
ヲ防衛ヲ爲サザル間ハ其委任者ノ爲シ行爲ヲ爲ス可シ
得

第五節 訴訟費用

第七十二條 敗訴ノ原告若クハ被告ハ訴訟ノ費用ヲ負擔シ殊ニ訴訟ニ因リ生シタル費用ヲ相手方ニ辨濟ス可シ但其費用ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利伸張又ハ權利防禦ニ必要ナル時認ムルモシニ限ル

第七十三條 當事者ノ各方一分ハ勝訴ト爲リ一分ハ敗訴ト爲ルトキハ其費用ヲ相消シ又ハ割合ヲ以テ之ヲ分擔ス可シ

第七十四條 被告直チニ請求ヲ認諾シ且其作爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルトキ非サルトキハ訴訟費用ハ原告ノ勝訴ト爲リタルトキ拘ハラス其負擔ニ歸ス

第七十五條 期日若クハ期間ヲ懈怠シ又ハ自己ノ過失ニ因リ期日ノ變更、辯論ノ延期、辯論續行ノ爲メ期日ヲ指定ハ期間ノ延長其他訴訟ノ遲滞ヲ生セシメタル原告若クハ被告ハ本案ノ勝訴者ト爲リタルトキ拘ハラス此力爲ニ業生シタル費用ハ負擔ス可シ

第七十六條 裁判所ハ無益ナル攻撃又ハ防禦ノ方法（證據方法ヲ包含ス）ヲ主張シタル原告若クハ被告ヲ以テ本案

鑑定若クハ相互ノ計算ニ因リ要求額ヲ定ムルニ非サルハ容易ニ過分ノ要求ヲ避クルコトヲ得サリトキハ當事者ノ一方ニ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十四條 被告直チニ請求ヲ認諾シ且其作爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルトキ非サルトキハ訴訟費用ハ原告ノ勝訴ト爲リタルトキ拘ハラス其負擔ニ歸ス

第七十五條 期日若クハ期間ヲ懈怠シ又ハ自己ノ過失ニ因リ期日ノ變更、辯論ノ延期、辯論續行ノ爲メ期日ヲ指定ハ期間ノ延長其他訴訟ノ遲滞ヲ生セシメタル原告若クハ被告ハ本案ノ勝訴者ト爲リタルトキ拘ハラス此力爲ニ業生シタル費用ハ負擔ス可シ

第七十六條 裁判所ハ無益ナル攻撃又ハ防禦ノ方法（證據方法ヲ包含ス）ヲ主張シタル原告若クハ被告ヲ以テ本案

大勝訴者ト爲シタラシキ拘ハラズ其方法ノ費用ヲ負擔ホトモ
 第七十七條 費無益ナル上訴又ハ取下ケタル上訴ノ費用ハ之
 又提出シタラズ原告若クハ被告ノ負擔ニ歸スモ又其
 第七十八條 同上訴ニ因リ裁判ノ全部又ハ一分ヲ廢棄若クハ
 破毀スルトキハ訴訟ノ總費用(上訴ノ費用ヲ包含ス)ハ裁
 判ノ本案ノ終局裁判ト併命シテ更ニ之ヲ爲シ可ク夫ニ因
 原告若クハ被告カ前審ニ於テ主張スルコトヲ得ヘカリシ
 事實又ハ攻撃若クハ防禦ノ方法ヲ新ニ提出スルニ因リ勝
 訴者ト爲ルトキハ其原告若クハ被告トシテ訴訟費用ノ全部又
 ハ一分ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第七十九條 當事者カ訴訟物ニ付キ和解ヲ爲ストキハ其訴
 訟ノ費用及ヒ和解ノ費用ハ共ニ相消シタルモノト看做ス

但當事者別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
 第八十條 法律ノ規定ニ從ヒ費用ニ付キ共同訴訟人ノ連帶
 義務ノ生セザル所ニ限リ其共同訴訟人ノ相手方ニ對シテ
 等ニ費用ヲ負擔ス然レトモ共同訴訟人ノ訴訟ニ於ケル利
 害ノ關係著シク相異ナルトキハ裁判所ハ其利害關係ノ割
 命ニ從ヒ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得
 共同訴訟人中ノ或ル人カ特別ノ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ主
 張シタルトキハ他人共同訴訟人ハ此內爲ニ生シタラズ費用
 又負擔セズ
 第八十一條 其從參加ニ對シ原告若クハ被告カ異議ヲ述フル
 由キハ其異議ノ決定ニ於テ從參加人ト其原告若クハ被告
 トノ中間訴訟ノ費用ニ付キ第七十二條乃至第七十八條ノ
 規定ニ從ヒテ裁判ヲ爲ス可シ

- 一 費用ニテ之ヲ限リハ連帶債務者全体ニ於テ連帶ニ負擔スルハキモトス(二三五號決議)
- 一 民事訴訟法上仮住所ノ届出ハ訴訟書類送達ノ便宜上之ヲ爲スルニシテ届出人ノ必スシモ現實ニ之ニ居住スルノ義務ヲ負フモノトシ非ニ然レトモ訴訟費用確定ノ申請ニハ各個費用額ノ疏明ニ必要ナル証書ヲ添付スルキモノナレハ申請人カ實際其本住所ヨリ裁判所ニ往復シタルコトヲ疏明セサル限り一々申請人ハ其届出タル仮住所ニ居住シタルモノト認メ本住所ヨリ往復シタルモノニアラスト認ムヘキハ正當ナリトス(一四三號判例)
- 二 同一ノ當事者間ニ於ケル二個以上ノ訴訟事件ニ付同日ニ同一裁判所ニ出頭シタル者ノ日當ハ出頭時間ノ長短ニ拘ハラス各事件ニ付五拾錢トシテ計算スヘキモノトス(一六四號決議)
- 二 訴訟費用ニ付強制執行ヲ爲スルニ確定決定ニ執行費ハ付與ヲ求ムヘキモノトス而シテ其付與ハ即時抗告期間内ト雖モ之ヲ爲スルコトヲ得ル(一九三號決議)
- 一 委任狀、月籍簿本、雇人証明書等ノ作成ニ關スル費用ハ訴訟費用中ニ包含スヘキモノトス(二四二號決議)

一 執行停止申請ハ費用ハ執行費用ニ非ス異議又訴ニ付テ其訴訟進行ニ付必要ナル訴訟費用ニ關シ同也

一 仮差押、仮處分ニ付其命令ヲ得ルマテノ手續ハ一種ノ訴訟手續トシテ之ノ費用ハ其命令ニ於テ裁判所ニ於テ訴訟費用ニ屬シ其命令ノ執行ヲ爲スニ付テハ費用ハ執行費用ニ屬ス(同上)

第七節 民事訴訟上ノ救助資金ニ關スル事

第九十一條 何人天問ハス自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ニ害スルニ非カレハ訴訟費用ヲ出タスル能ハク其生活ニ害スル救助ヲ求ル者天ト得但其目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦人輕忽ナラズ又ハ見込大キニ非ス見見スルキニ限リ

第九十四條 訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ各別ニ之ヲ付與ス

第一審ニ於テ強制執行ニ付テモ之ヲ付與ス

前審於訴訟上ノ救助ヲ受ケタルトナリ上級審ニ於テ
 無資力ヲ證スルコトヲ要セズ相手方上訴ヲ提出シタル
 上級審ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ求ムル原告若クハ
 被告ノ權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ
 非スト見エルヤ其調査スルコトヲ要セズ又ハ其權利ノ伸
 第九十七條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告
 爲ニ左ノ效力ヲ生スル自ラ其家財ノ必要ナル部分

第九十八條 裁判費用(國庫ノ立替金ヲ包含ス)ヲ濟清スルコ
 トノ假免除

第九十九條 訴訟費用ノ保證ヲ立ツルコトノ免除

第一百條 送達及ヒ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬
 受訴裁判所ニ必要ナル場合ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ受ケ

タル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一時無
 報酬ニテ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

第九十八條 訴訟上ノ救助ハ相手方ニ生ズタル費用ヲ辨濟
 義務ヲ影響ヲ及ボサズ

第九十九條 救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ニ爲シ假令三濟
 清ク免除シタル裁判費用ハ訴訟費用ニ付キ確定裁判ヲ受

ケタル相手方又ハ訴若クハ上訴ノ取下、拋棄、認諾若クハ
 案和解ニ因リ訴訟費用ヲ負擔ス可キ相手方ヨリ之ヲ取立ツ
 ルコトヲ得

救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ニ附添セタル執達吏又ハ
 辯護士ハ同十條ノ條件ニ依リモハ亦自己ノ權利ニ依リ費用
 確定方法ヲ以テ其手数料及ヒ立替金ヲ取立ツルコトヲ
 得

第三章 訴訟手續

第六節 以目頭辯論及以準備書面及以立書之方式

第一百八條 當事者ハ準備書面及以其附屬書類ニ相手方ニ付與スル爲メ必要者ハ原本ヲ裁判所書記課ニ提出ス可シ

第三節 送達

第三十條 補送達ハ裁判所書記職權ヲ以テ之ヲ爲ス

裁判所書記ハ執達吏ニ送達ヲ施行シ委任シ又ハ補送達ヲ施行ス可ク地裁管轄スル區裁判所書記ハ送達ヲ施行ス可ク

達吏ニ委任シ得ル者ハ之ヲ囑託ス

裁判所書記ハ補便ニ依テ之ヲ亦送達ス可ク又ハ裁判所書記得ル者ニ之ヲ囑託ス

第二項ノ場合ニ於テハ執達吏ハ第二項ノ場合ニ於テ之ヲ補

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

送達ス可ク又ハ補送達ス可ク

補配達人以下ニ規定スル送達吏ハ其補配

第一百二十七條 送達ス可キ書類ノ正本又ハ認證シ

タル原本ヲ交付ス可キ規定ナルハ其原本又ハ其原本

原本交付ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ原本又ハ其原本

原本交付ス

原告若シテ被告數人ノ代理人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ被告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

シテ原告ノ代理人中ノ一人ニ爲シ又ハ共同ニテハ原告若

數人ノ首長若クハ事務擔當者アル場合ニ於テハ送達ハ其一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ルルニシテ其首長又ハ事務擔當者ニ對スル送達ハ其所屬ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人、軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス

第四百十條 囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲ス

第四百十一條 送達ハ財産權上ノ訴訟ニ付テハ總代理人ニ之ヲ爲シ又商業上ヨリ生シタル訴訟ニ付テハ代務人ニ之ヲ爲スヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタルト同キ其效力ヲ有ス

第四百十二條 訴訟代理人アルトキハ送達ハ其代理人委任ノ旨趣ニ依リ原告若クハ被告ノ代理ヲ爲ス權ヲ有ス然レトモ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタル送達ハ其訴訟

代理人アルトキト雖モ效力ヲ有ス

第四百十三條 受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル原告若クハ被告ハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ之ヲ届出シ可シ

假住所選定ノ届出ハ遅クトモ最近ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲シ又其前ニ書面ヲ差出スルキハ其書面ヲ以テ之ヲ爲シ可シ

前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記又ハ其委任ヲ受ケタル吏員交付ス可キ書類ヲ原告若クハ被告ノ名宛ニテ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得此送達ハ其書類ノ原告若クハ被告ニ到達スルト否トヲ問ハズ又何時ニ到達スルトヲ問ハズ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルトシ

送達ノ届出ハ其書面ヲ受ケル人

得サルトキハ第四百四十五條第二項ニ準シ送達ヲ爲ス可シ
 但住居ニ於ケル送達ヲ施行スルヲ得サルコトノ明白ナル
 トキハ限ル者受取ニ付テ蓋支マハレテハ送達ハ申渡シ
 前項ノ場合ニ於テハ送達告知書ノ貼附ハ事務所又ハ住居
 前ノ戸ニ之ヲ爲ス百三十八條第二項ノ規定ニ依リテ
 第四百四十九條 法律上ノ理由ナクシテ送達ノ受取ヲ拒ムト
 送達ノ交付ス可キ書類ヲ送達ノ場所ニ差置ク可シ
 第四百五十條 日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ執達吏ノ爲メ可
 キ送達ハ裁判官ノ許可ヲ得ルトキニ限リ之ヲ施行スル
 前項ノ規定ハ郵便ニ付シテ爲メ送達ヲ除ク外ハ夜間ニ爲
 ス可キ送達ニ之ヲ適用ス夜間トハ日没ヨリ日出マテノ時
 間ヲ謂フ可キ書狀ニ其取ル市町村長ニ送達ヲ送達ハ書狀

右ノ許可ハ受訴裁判所ノ裁判長又ハ送達ヲ爲ス可キ地ヲ
 管轄スル區裁判所ノ判事之ヲ與ヘ又ハ受命判事若クハ受
 託判事ノ完結ス可キ事件ニ在テハ其判事之ヲ與フ
 許可ノ命令ハ認證シタル謄本ヲ以テ送達ノ際之ヲ交付ス
 可シ
 第四百四十四條 出納ノ軍制又ハ海軍ニ關シテハ軍制ノ乘除
 本條ノ規定ヲ遵守セサル送達ハ之ヲ受取リタルトキニ限
 リ效力ヲ有ス
 第四百五十一條 送達ニ付テハ之ヲ施行スル吏員ハ送達ノ場
 所、年月日時、方法及ヒ受取人ノ受取證並ニ送達吏ノ署名
 捺印ヲ具備スル證書ヲ作ルコトヲ要ス
 受取人受取ヲ拒ミ若クハ受取證ヲ出タスコトヲ拒ミタル
 トキ又ハ受取證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ之
 ヲ送達證書ニ記載ス可シ

本二裁判所ノ當事者位ニ訴訟物及ニ送達ス可キ書類ノ
 要旨ヲ掲シテハコト要スキ書類ノ付本マ一箇又ハ二箇ノ
 第五百十八條 公示送達ハ書類ノ貼附ヨリ十四日ヲ經過シ
 タル日ヲ以テ之ヲ爲シタルモ其後若クハ然レトモ裁判所
 以公示送達ヲ命ズルニ際シ此旨更長キ期間ヲ必要トスル
 時キハ相當ナル期間ヲ定ムルコトヲ得
 同二才事件ニ付平同二原告若クハ被告ニ對シテ爲ス其
 後ノ公示送達ハ貼附ス以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 又若クハ之ニ對シテ其後ノ付本ニ付テハ其後ノ
 代價ニ對解爲ス類ニ送達ニ付テハ其後ノ送達ニ付テハ
 同訴訟人間ノ訴訟ニ於テ訴訟代理人タル場合則止本ヲ送達ハ其正本一
 通テ代理人中ノ一人ニ爲スモ有效ナリ(二號判例)
 一送達ヲ受クヘキ本人ノ現在地知レサルモ其家ニ家族モ住居シ且失踪者ト確
 定セサルトキハ民事訴訟法第四百十五條ニ從ヒ送達スルハ相當トス(八號
 判例)

一決議(一)ノ署名ヲ類ナシニ送達スルハ其後ノ送達ニ付テハ其後ノ送達ニ付テハ
 一執達吏方同居人ナリト認メ爲シタル送達ヲ無効ナリトスルニハ其事實ヲ証
 明セサルヘカラス(九號判例) 一關シテハ其後ノ送達ニ付テハ其後ノ送達ニ付テハ
 一一定ノ住宅ナク行衛不明者又ハ會テ住居シタル家屋アルモ全ク其行衛知
 レサル者ニ對シテハ申立ニ依リ公示送達ノ手續ヲ用ユヘキモノナリ(三二
 號決議) 一(一)ニ對シテハ其後ノ送達ニ付テハ其後ノ送達ニ付テハ
 一仮住所ノ届出ヲ爲シタル訴訟關係人ニ爲スル送達ヲ其訴訟關係人亦仮住
 所ニ不在ノ爲メ仮住所ノ主人ニ爲スル無効ナリ(四二號決議) 一(一)ニ對シテハ
 一民事訴訟法第四百十五條ニ掲ケタル住居ノ中ニハ仮住所ヲモ包含ス(六一
 號決議) 一(一)ニ對シテハ其後ノ送達ニ付テハ其後ノ送達ニ付テハ
 一民法第二十四條ニ於ケル仮住所ノ規定ハ民事訴訟法上ノ仮住所ニ適用スル
 一事勿論ナリ(一四四號判例) 一(一)ニ對シテハ其後ノ送達ニ付テハ其後ノ送達ニ付テハ
 一民事訴訟法第四百十三條ニ於ケル仮住所ノ規定ハ送達ニ關シテノミ住所ト
 見做サルモモニシテ其事件全体ニ付住所ト看做サルモモノミアラズ故ニ
 一法律上ノ期間ノ猶豫ニ關シテハ仮住所ノ效力ヲモ下ス(一四四號判例)
 一民事訴訟法第四百十五條第二項ハ在籍者又ハ寄留者ニ非サルモ苟モ住居ヲ
 解 疑

外國ニ於テ送達ヲ施行ス可キトキハ裁判長相當ノ時間ヲ
 第百九十四條 裁判長ノ裁量ニ依リ口頭辯論ノ限日ハ間ニハ少
 第百九十八條 訴ノ全部又ハ一分ハ本案ニ付キ被告ノ第一
 口頭辯論ノ始マレバ被告ハ承諾大欠タル否取テ
 又其後口頭辯論ヲ終結シ至リテ被告ハ承諾得ル
 ヲ取下クハコトヲ得
 訴ノ取下ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲ササルトキハ書面ヲ以
 テ之ヲ爲ス可シ
 訴狀ヲ既ニ送達シタル場合ニ於テ新取テ書面ハ之ヲ
 被告ニ送達ス可シ
 適法ナル取下ハ權利拘束中總テノ效力ヲ消滅セシムル結
 果ヲ生ス
 取下クタル訴ヲ再起シタルハ被告前訴訟費用ノ

辨濟ヲ受クル事ヲ應訴ヲ拒ムコトヲ得自三十日以前又ハ

第百九十九條 三訴狀送達ノ際十四日ノ期間内答辯書ヲ差

出ス可キコトヲ被告ニ催告ス可シ

第百九十九條 答辯書ニ準備書面ニ關スル一般ノ規定ヲ適用スルハ之ヲ

代メ第三節 判決

第三百四十五條 訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ則裁判所

最終局判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

同時ニ辯論及ビ裁判ヲ爲ス爲メ併合シタル數箇ノ訴訟申

本ニ付與裁判ヲ爲スニ熟スルトキモ亦同シ

第三百五十七條 各箇ノ獨立ナル攻撃若クハ防禦ノ方法又

第百六十八條 中間ノ争カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ中間判決ヲ以テ

裁判ヲ爲スコトヲ得

第二百三十八條 其各當事者ハ判決ヲ送達セラレバ下ヲ申立

第二百三十九條 未タ判決ヲ言渡サス又ハ未タ判決ノ原本
可シ

第二百三十九條 未タ判決ヲ言渡サス又ハ未タ判決ノ原本
第三署名捺印セサル間ハ裁判所書記其正本抄本及七騰
本ヲ付與スルコトヲ得ス

裁判所書記ハ判決ノ正本、抄本及七騰本ニ署名捺印シ且
裁判所印ヲ捺シ之ヲ認證ス可シ

第二百四十四條 判決ハ其正文ニ包含スルモノニ限リ確定
力ヲ有ス

第二百四十五條 前口頭辯論ニ基キ爲ス裁判所ハ決定ハ之ヲ
言渡サトトテ要ス

第二百三十三條、第二百三十四條ノ規定ハ裁判所若決定
之ヲ準用シ又第二百二十五條、第二百二十九條及ヒ第

第二百四十四條ノ規定ハ裁判所ノ決定及ヒ裁判長並受命判
事又ハ受託判事ノ命令ニ之ヲ準用ス
言渡ヲ爲サハ裁判所ノ決定及ヒ言渡ヲ爲ササル裁判長
並受命判事又ハ受託判事ノ命令ハ職權ヲ以テ之ヲ當事
者ニ送達ス可シ

第三節 闕席判決

第二百五十五條 闕席判決ヲ受ケ原告若クハ被告ハ其
判決ニ對シ故障ヲ申立ツルヲ得

故障申立ノ期間ハ十四日トス此期間ハ不變期間ニシテ闕
席判決ノ送達ヲ以テ始ル

故障申立ハ判決ノ送達前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得
外國ニ於テ送達ヲ爲スコキトキ又ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ
爲スコキトキハ裁判所ハ闕席判決ニ於テ故障期間ヲ定メ

其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知悉タル事實ニシテ默秘不可キモノニ關スルトキ

第三 問責付テ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケル者ニ對シテ辱共歸スルカ又ハ其刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アルトキ

第四 問責付テ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシム可キト認メ

第五 證人カ其技術又ハ職業ノ祕密ヲ公擧スル固非サレバ答辯スルコト能ハサルトキ

第二章 區裁判所又訴訟手續ノロトク此法ニ依リテ

第三百七十七條 口頭辯論合期日ト訴狀送達日ト間隔少ナクトモ三日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス急迫ナル場合ニ於テハ此時間内ニ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得

送達又外國ニ於テ爲ス可キトキ外事情ニ應シテ時間ヲ定メ可キ

第二節 督促手續

第三百八十八條 一定ノ金額ヲ支拂其他之代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ヲ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ債權

者ハ通常ノ訴訟手續ニ依ラヌシテ督促手續ニ依リ條件附

支拂命令ヲ債務者ニ對シ發センコトヲ申立ツルコトヲ得

申請ノ旨趣ニ依レハ申請者反對給付ヲ爲スニ非サレハ其請求ヲ主張スルコトヲ得サルトキ又ハ支拂命令ヲ送達

外國ニ於テ爲シ若クハ公示送達ヲ以テ爲ス可キトキハ督促手續ヲ許サス

第三百八十七條 權利拘束ノ效力ハ支拂命令ヲ債務者ニ送

送達ノルヲ以テ始ルニ支拂命令ハ送達時之債權者ヲ通知
送可ルニ指セズ

第三百九十二條 督促手續ニ費用ハ適當ナル時間ニ異議ヲ
申立テ支拂ル場合ニ於テハ起テ可キ訴訟費用ハ二分
看做ス旨趣ニ對シテ申請者又被告ノ各ハ其
前條ノ場合ニ於テ期間内ニ訴ヲ起ササルトキハ手續ノ費
用及債權者ノ負擔者歸スルニ對シテ申立ルハ
第三百九十五條 支拂命令ハ其命令申出掲出タル期間ハ經
過後債權者ハ申請原因之ヲ假令執行シ得キ付ト直
業言内但假執行ノ宣言前債務者異議又申立テ其
ル業二節 督促手續
右假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ付ス可キ執行命令ヲ以テ之
為メ其執行命令ハ債權者ニ於テ計算スル手續費用

又掲出可キハ送達後ハ以テ
債權者ハ申請ヲ却下ハ決定
コトヲ得

第三編 上訴

第一章 控訴

第四百條 控訴期間ハ申立タル
判決ノ送達ヲ以テ始マル
此期間ハ不變期間ニテ

判決ノ送達前ニ提起シタル
控訴ハ無効トス

第四百三條 控訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存ス
ルコトヲ要ス出時間ニ付テハ第四百九十四條ニ規定ヲ適用

シ答辯書ヲ差出ス可キ期間ノ催告共付候時第九十九條
 前項ノ規定ヲ適用スルハ、送達ノ口取簿篇ノ附日ノ間ニ於テ
 第四百二十六條ノ規定ニ從ヒテ防禦ノ方法ヲ
 却下スルトキハ其防禦ノ方法ヲ主張スル權ハ之ヲ被告ニ
 留保ス可シ
 判決此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ
 從ヒテ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得
 留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ終局判
 決ト看做ス
 第二章 上告
 第四百三十七條 上告期間ハ本月トス此期間外不變期間
 ニシテ判決ノ送達ヲ以テ始マル

判決ノ送達前ニ提起シタル上告ハ無効トス
 第四百四十條 上告狀ハ送達前自頭辯論ノ期日トシテ間ニ存
 在スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第九十四條ノ規定ヲ適
 用シ答辯書ヲ差出ス可キ期間ノ催告共付テハ第九十九
 條ノ規定ヲ適用スルハ、要件并ニハ不變期間ノ滿
 前項ノ場合ニ於テ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコト
 得
 第三章 抗告
 第四百六十條 抗告ハ此法律ニ於テ別段ハ規定ヲ設ケ
 場合ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス第六百八十八條ノ
 然レトモ不服ヲ申立相付ルハ裁判長ハ其裁判所又
 裁判長ハ抗告ニ付テハ裁判アルマテ其執行ノ中止ヲ命
 命
 抗告裁判所外抗告ニ付テハ裁判ヲ爲ス前旨不服ヲ申立テ
 民事訴訟法
 二七二

第四百六十六條 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從テ
 抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ス可シ其期間ハ裁判及
 送達ヨリ始リ第百五十三條ノ第六百八十條及ヒ第七
 百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ハ言渡ヲ始マル
 抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫ナラスト認め
 再審ヲ求ムル訴ニ付テノ要件存スルトキハ不變期間ノ滿
 了後ト雖モ此訴ヲ爲ス定限内ハ期間内ト抗告爲ス可シ
 又得ニトモ要スル期間ニ付テハ第四百七十四條ノ規定ニ依
 前條第十項ノ場合ニ於テハ抗告提出爲限定ニ依リテ方法
 中依リ不變期間内ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要

ト受訴裁判所ト其申請ヲ正當認メサルトキ前之ヲ抗告

裁判所ニ送付ス可キハ前條ノ規定ニ依リテ申立又ハ前條ノ

第四百編ノ再々審判ノ因リモ之ヲ爲ス

第四百七十四條 訴願時ノ月日不變期間内ニ之ヲ起シ可シ

此期間原告若クハ被告カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以

テ始ル若クハ原告若クハ被告カ判決ノ確定前ニ不服ノ理

由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以テ始マル

判決確定ノ日ヨリ起算シテ五箇年ヲ滿了後ハ訴ヲ爲スコ

トヲ得ス

前二項ノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ場合ニ之ヲ適用

セズ此場合ニ於テ其訴ヲ提起スル期間原告若クハ被告又

其法律上代理人送達ニ因リ判決ナリタル時ニテ之ヲ起シ

得ルヲ以テ始メ又爲替補償

民事訴訟法

第五編 以證書訴訟及爲替訴訟

第四百九十一條 原告主張其請求權時、被告ニハ敗訴

ノ言渡ヲ受ケタル總之場合ニ於テ其權利ノ行使又留保ス

可シ 判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ

依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得 留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ之ヲ終

局判決ト看做ス 第六編 強制執行 第一章 總則 第四百九十七條 強制執行ハ確定シ終局判決又ハ假執行ノ

宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス 第四百九十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル

上訴ノ提起ニ付キ定額タル期間ヲ滿了前キハ確定セザル

テトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴其期間内ニ申立若クハ提

起スルニ因以之ヲ遮斷ス

第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明

書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ

付與ス 訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ

書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付

與ス 判決ニ對シ上訴ヲ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與

スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書

記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書

ヲ以テ足ル

民事訴訟法

二七五

第五百三條及第五百三條の場合ニ於テハ債權
人同者ノ假執行ヲ申立テ却下スルモノトモ
第五百五條 總ての場合ニ於テ裁判所ハ債務者ハ申立ニ因
リ債權者豫メ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨
ヲ宣言スルモノトモ得ヘキ旨ニ關シテ申出テ
債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルモノトモ申出テ
ハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託
ヲ爲サシメテ執行ヲ免カスルモノトモ許ス可キ申出
第五百六條 假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル口頭辯
論ノ終結前ニ爲ス可キ旨ニ關シテ申立ニ因リ却下
第五百七條 假執行ニ付テハ裁判所判決本文ニ之ヲ掲
シ

第五百八條 職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ
於テ假執行ニ付テハ裁判所爲シ得ルモノトモ又ハ判決ノ假執
行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立ヲ看過シ得ルモノトモ
第四十二條及七第三百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ
爲ス可キ旨ニ關シテ申立ニ因リ却下スルモノトモ
第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言
オカリシモノ又ハ條件附ク假執行ノ宣言アリ又ハ否トモ
上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辯論ノ進行
中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ
其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

第五百十條 本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言又廢棄若クハ破
毀又ハ變更スル判決ノ書渡アルトキハ假執行ヲ其廢棄若
クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ效力ヲ失フ期間又ハ
民事訴訟法

假執行を宣言するに於て本案の判決を廢棄若しくは破毀又は變更する虞がある判決を基き被告の支拂又は給付を命ずるものとして被告の申立てに因り判決を以て原告に言渡す可

第五百十一條 第二審に於て先づ申立てに因り先づ假執行を付

口頭辯論及び裁判を爲す可しハ被告の申立てに因り先づ假執行を付

第二審に於て假執行を付キ爲シタル裁判に對シテハ不服

第五百十二條 假執行を宣言するに付シタル判決に對シテ故障を

第五百十三條 本編の規定に從ヒ原告若しくは被告に保證を

立つル義務を負ハシメ若しくは保證を立テ又ハ供託を爲ス

コトヲ許シタル場合主於て其原告若しくは被告ハ其普通裁

判籍地有る土地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證を立テ

保證を立テ又ハ供託を爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ハ本邦

ノ裁判所ニ於テ執行判決を以テ其適法ナルコトヲ言渡シ

タルキキム限リ之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル

地方區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍

ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ

管轄タル裁判所之ヲ管轄スル當合ニ關シテハ

第五百十五條 執行判決管裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲
 可シキハ該管裁判ノ執行ニ對シテ之ヲ却下ス可シ
 執行判決ヲ求メ又訴訟左ノ場合ニ於テ之ヲ却下ス可シ
 時第百六條外國裁判所ノ判決ノ確定ヲ爲シ得ルハ其證明
 文ハキサル判キニ依リテ之ヲ却下ス可シ
 第四百本邦ノ法律ニ依リテ強テ爲ルルモノトテ得ルル
 第百百行爲ヲ執行困難トシキニ因リテ之ヲ却下ス可シ
 第三本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所ノ管轄權ヲ有セ
 爾第百六條トキハ其證明文ハキサルニ因リテ之ヲ却下
 又第四百敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリシトキ但
 其證明文ヲ開始スル時及至命令ヲ受訴裁判所所屬在國
 中ニ於テ又ハ法律上其助無依本邦於テ本邦人ニ送
 立テ達達サリシトキニ限ルルハ其證明文ハキサルニ因リテ之ヲ却下ス

第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

第五百十六條 強制執行ニ執行文ヲ付シタル判決又正本ニ
 基キ之ヲ爲ス

執行力アリ正本第一審裁判所書記又訴訟及上級裁判
 所ニ繫屬スルトキ其裁判所書記之ヲ付與シ其承辦
 執行力アル正本ヲ求ル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス
 其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行力爲
 原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與スルニ對シ
 執行文ニハ裁判所書記署名捺印且裁判所印ヲ押ス可

民事訴訟法
 二八五

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又
 以假執行ノ宣言ハ書寫物トシテ其期限ハ之ヲ付與シタル
 判決ノ執行力其旨趣若シテ保證ヲ直ツルコトニ繋ル場合
 ノ外他ノ條件ニ繋ル場合ニ於テ其債權者カ證明書ヲ以テ
 其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限り執行力アル
 正本ヲ付與スルコトヲ得ル五本ノ末以テ之ヲ留置ス
 第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者
 以承繼人ノ爲メ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債權者
 以一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼力
 裁判所ニ於テ明白ナル者及以證明書ヲ以テ之ヲ證スル
 非キニ限ル
 此承繼力裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行力ニ記載
 ス可シ

第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場
 合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令スル所ニ限
 リ之ヲ付與スルコトヲ得且代メテ五本ノ複製ヲ付與セ又
 裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊ス
 ルコトヲ得命令ハ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ對被告ニ審訊
 右命令ハ執行力ニ之ヲ記載ス可シ
 第五百二十一條 第五百十八條第三項及ヒ第五百十九條
 依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ
 基キ執行力ノ付與ニ付キ第一審メ受訴裁判所ニ訴ヲ起ス
 コトヲ得
 第五百二十三條 執行力ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立
 テタルトキハ其執行力ノ付與シタル裁判所書記官屬スル
 裁判所之ヲ裁判スルニ別當公ニ裁スルコトヲ得且之ヲ立

裁判長其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立
テシテ若クハ之ヲ立テシテ以テ強制執行ヲ一時停止シ
テ又ハ保證ヲ立テシテ以テ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコ
トヲ得

第五百二十三條 債權者ガ執行力アル正本ノ數通ヲ求ム又
以前ニ付與シタル正本ヲ返還セヌシテ更ニ同ノ判決ハ正
本ヲ求ムル所キハ裁判長ノ命令テル所キニ限リ之ヲ付與
スル命令ト得又ニ之ニ違フ事
裁判長其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊
殊ニ其ト得命令ニ書面又ハ口頭ヲ以テ前審答メ審問ス
相手方ヲ審訊セヌシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又
命更ニ正本ヲ付與シタル本キ其旨ヲ相手方ニ通知ス可
キ
第五百二十四條 第五百十八條第二項及第五百十八條ノ規

正本ノ數通ヲ付與シタル本其旨ヲ相手方ニ通知ス可
キ
第五百二十四條 第五百十八條第二項及第五百十八條ノ規

第五百二十四條 第五百十八條第二項及第五百十八條ノ規
則ハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可キ
原告ハ爲若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨ニ之ヲ付與
スル旨ヲ記載ス可シ

第五百二十五條 執行力アル正本ノ數通ヲ付與シタル本
裁判所ノ管轄内ニ止マシメテ總額本邦裁判區域内ニ及
スルコトヲ得

第五百二十六條 債權者ハ其管入地又ハ一箇ノ方法ニ於テ強
制執行ヲ爲スルニ定ムル辦法ヲ得ル能ハスルコトヲ得
強行力アル正本ノ數通ヲ付與シタル本及ハ數箇ノ方法ニ於テ同
時ニ強制執行ヲ爲スル權利ヲ有スルコトヲ得
第五百二十七條 債權者ハ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シタル本
裁判所ノ管轄内ニ止マシメテ總額本邦裁判區域内ニ及
スルコトヲ得

第五百三十二條 執行力ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲
及ヒ職務上人義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ
對シ損害ヲ生ゼシタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執
行ヲ委任シタルトキハ執行力アル特別ノ委任ヲ受ケザルト
キト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取ル其受取ルモノハ執行力アル
義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債權者ニ

第五百三十四條 執行力アル正本ヲ所持スルヲ以
テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル
行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任
ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

第五百三十五條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ之ニ交付シ又
其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附
記シ且受取ル證附債務者ニ交付ス可シ

第五百三十六條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百三十七條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百三十八條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百三十九條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百四十條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百四十一條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百四十二條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百四十三條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百四十四條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百四十五條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百四十六條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百四十七條 執行力アル正本及ヒ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ル證ヲ求ムル權利ハ前項
停止規定ニ因リテ妨ケタルルコト無シ

第五百二十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テ
債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル
戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受ケル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用井且警察官
ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルモ其之ヲ執
行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百二十七條 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受
ケル者又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ

債務者又ハ成長シタル其家族若シハ雇人ニ出會ハサルト
キハ成可者二人又ハ市町村若シハ警察署吏員一人ヲ證人

ト附立會ハシテ可シ

第五百二十八條 強制執行時付代利害ノ關係有ル各人
交シ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閱覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ

存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百二十九條 夜間及ヒ日曜日及ヒ祝祭日ニ於テ執
行裁判所ノ許可ヲ受ケテハ其限外執行行爲ヲ爲ス可トヲ

得

右許可ヲ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ

第五百四十條 執達吏ハ各執行行爲ニ付テ調書ヲ作成シ
此調書ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 執行行爲ノ年月日
二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ畧記

三 執達吏ノ署名捺印
四 債務者ノ署名捺印

五 執行行爲ノ結果
六 債務者ノ承諾シテ其承諾ノ
後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示

第六號及第五號ヲ署名捺印
其理由ヲ記載ス可キモノハ
第四號及第五號ヲ要件ニ具備スルモノ能ハサズ

第五百四十一條ニ執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達
吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可キモノハ
若シ口頭ニ以テ催告又ハ通知ヲ爲シ不能ハサルトキハ第百
五十九條、第四百十條及第四百四十五條乃至第四百十九
條ノ規定ヲ準用シ其調書ハ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證
ヲ作ラサレバ其調書ハ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス
可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ
送達ヲ爲シ不能ハサルモノハ催告又ハ通知ヲ受取可キ者
郵便ヲ以テ調書ハ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコ

第五百四十二條ノ執行行為ハ實際債務者ニ爲シ送達及
通知ハ債務者ノ所在明カナラザレバ又外國ニ在ル
モノ之ヲ必要トセス

第五百四十三條此法律ニ於テ裁判所ニ在ル執行行
爲ノ處分又ハ其行為ノ其力ハ執行裁判所ニ屬ス
管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テ
ハ執行手續ヲ爲シ可キ地又ハ之ヲ爲シタ地ニ管轄ニ屬ス
區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做スルハ委任ニ對シ
執行裁判所ノ裁判口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ
得

第五百四十四條強行執行ノ方法又ハ執行ノ際ニ執達吏

於遵守時可再手續に關し申立及て異議を付すに執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定ル執行命令を發すに權有之るに依りて之を拒絶若クハ委任ニ從ヒ執行行爲を實施スルコトヲ拒ミタル時又ハ執行吏員計算セザル材料ニ付テ異議を以テ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權有之る

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關シテ債務者ハ異議を訴げ以テ第廿審に受訴裁判所ニ之ヲ主張シ可シ

右ハ異議ハ此法律ニ規定ニ從ヒ遅クモ異議を主張スルに於テ要スル口頭辯論ヲ終結後其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り之ヲ許ス

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スル時キハ同時ニ之ヲ主張スル可シ

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百四十八條第廿項及ヒ第五百四十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與に際證明タリト認ルればタテ外事實に到來シテ此に因リ判決に執行行爲を以テ得合キキモノヲ爭ヒ又ハ認ラズルモノ承繼者爭フ付キハ亦之ヲ準用ス但此場合於テ第五百二十二條ノ規定に從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議を申立ツル債務者ハ權ハ此カ爲ニ妨ケラルコト無シ

第五百四十七條 強制執行ノ續行ハ前三條ノ場合於テハ異議を訴フ提起ニ因リテ妨ケラルコト無シ

然レモモ異議を爲メ主張スル事情カ法律上理由アリ得ト見并且事實止メ點ニ付キ疏明アリタテキ止受訴裁判所

且申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルヤテ保證ヲ立ラシメ
 然レテ立ラシメシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ
 又ハ保證ヲ立ラシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ
 又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立ラシメテ取消ス可キ
 コトヲ得
 右裁判ハ口頭辯論ヲ經スルテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ
 於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得
 急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スル
 コトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判
 ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過
 シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス
 第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判
 決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ

取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得
 判決中前項ニ掲ケル事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ旨言
 フ爲ス可シ
 右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用
 ス
 第五百四十九條 第三者ヲ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權
 ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主
 張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル
 異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナルトセザル
 トキハ債權者及ビ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ但シ
 右訴ヲ債權者及ビ債務者ニ對シテ起スルハ之ヲ共同被
 告ト爲ス
 右訴ハ執行裁判所ハ管轄ニ屬ス然レモ訴訟物ハ國籍特
 民事訴訟法

所屬管轄之廳申刑以管轄ハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄ト
 必地方裁判所之ヲ管轄ス
 強制執行ノ停止及既爲之執行處分ハ取消付
 ハ第五百四十七條及第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但
 執行處分ヲ取消保釋ヲ立テ以テ之ヲ爲スコトヲ
 得
 第五百五十條強行執行ノ書類ヲ提出スル場合ニ於
 第五之判停止又強行執行ノ制限ヲ可シハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強
 第一執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強
 強制執行ノ許サスルハ其宣言若クハ其停止ヲ命ジテ
 旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本
 第二中執行又執行處分ノ期時停止ヲ命ジテ其旨ヲ記
 載シタル裁判ノ正本ハ其時停止ヲ命ジテ其旨ヲ記

第三執行ノ免カルハ管爲ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタ
 正旨ヲ記載シタル公正人證明書對出スルニ依リ
 第四執行ス可キ判決後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義
 務履行ハ猶豫ヲ承諾スル旨ヲ記載シタル證書
 第五百五十一條前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既
 判爲各々執行處分ヲ取消可キ第四號ノ場合ニ於テハ
 第五號ノ爲ニ於テハ執行處分ヲ一時保持シタル可キ第二號ノ
 場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲爲取消命セ
 其假執行ノ期限及既爲之執行處分ノ一時保持シタル旨
 第五百五十二條強行執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルト
 キハ強制執行ノ遺產對シテ之ヲ續行ス可キ又ハ其繼承人
 債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於
 民事訴訟法 三〇三

其相續人ヲサレトモ又ハ相續人ノ所在不明ナルハ其ノ
キハ執行裁判所ニ債權者ハ申立ニ因リ遺產又ハ相續人ノ
爲メ特別代理人ヲ任ズ可シ

第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ戶主タリシ債務者カ

其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトモ此變更ハ生ゼシ當

時債務者ハ所持タル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナル部分ニ限リ

債務者ハ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クニ論求同

時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄者ハ破毀シ得トキハ

其費用ハ之ヲ債務者ハ辨濟ス可シ

第五百五十五條 執行公爲人官廳若テ援助ヲ必要トスルトキ

裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人ハ軍屬

ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲

ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍

事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ニ委任シテ之ヲ執達吏ニ

之ヲ交付ス可シ

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於

テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キト

キハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國

官廳ニ囑託ス可シ

外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ

第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシ

ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區
裁判ノ管轄ニ屬セザルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ
其訴ヲ起ス可シ

第五百六十二條 公證人ノ作りタル證書ノ執行力アル正本
ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テハ裁判及ヒ更ニ執行文付
與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄
スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項
ニ規定シタル制限ニ從ハズ五百五十八條ノ規定ニ準用ス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴
又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ
係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ

債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ
此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對
シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

一 債權者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ
此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對
シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

一 強制執行ハ檢事ノ請求アルモ其請求ノミニテハ之ヲ中止スルヲ得ス(三號
判例)

一 本案ニ付キ仮執行ノ宣言ヲ爲シタルトキハ其宣言ハ訴訟費用マテモ包含ス
(一四號決議)

一 民事訴訟法第五百三十九條ノ規定ハ債務者ニ於テ拒マサルトキハ裁判所ノ
許可ナシト雖モ執行行為ヲ爲スコトヲ得ヘシ(一九號判例)
一 如何ナル場合ト雖モ費用額確定決定ニ基キ執行ヲ爲ストキハ其決定ニ執行
文ヲ要ス(二八號決議)

解 疑

- 一 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルトキハ他ニ何等ノ委任狀ナキモ債務者及口第三者ニ對シ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有スルヲ以テ有体動産ハ強制執行ハ執達吏其物ヲ占有シテ爲スヲ通常トス然ルニ第三者ノ占有中ニ在ル物件ニ付テハ第三者カ其權利ヲ主張シ其物ヲ提出ヲ拒ムトキハ執行裁判所ニ命令ニ依ルニアラサレハ之ヲ爲スヲ得ス(四二號決議)
- 二 假執行ノ宣言ハ民事訴訟法第五百十二條ノ手續ニ從ヒ停止以命令ヲ受ケサハ限リハ執行ヲ進行セシムルヲ得ヘシ(四八號決議)
- 三 執行力アル公正証書正本ニ基キ強制執行ヲ爲サントスルトキ債務者ニ公正証書ヲ送達スル場合ハ債權者ヨリ直接ニ執達吏ニ送達方ヲ委任スヘシ(四八號決議)
- 一 判決主文ニ元金百圓ニ明治四十五年一月以來年二割ノ利子ヲ付シ返濟スヘシトナル場合ノ利子ハ四十五年一月ヨリ其判決ノ日ニ至リ外執行スルヲ得ス(四九號決議)
- 一 民事訴訟法第五百五十條四號前段ノ規定ハ訴訟前既ニ債務者ヨリ債權者ニ對シ法律上相殺シ得ヘキ債權ノ存スル場合ハ包含セズ(四九號決議)
- 一 民事訴訟法第六十二條指名參加ノ場合ニ於テ第三者カ訴訟ヲ引受ケタルカ

- 爲メ脱退シタル被告ニ對シ強制執行ヲ爲サントスルニハ民事訴訟法第五百十九條第五百二十條ノ規定ニ準シ脱退シタル被告ニ對スル執行文アルヲ必要トス(五一號決議)
- 一 本案裁判ヲ執行スルニ際リ執行費用ヲ取立テス誤テ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付シタル後ニ至リ之ヲ取立テントスル場合ハ民事訴訟法第八十四條ニ依リ費用ノ確定決定ヲ受ケ同第五百五十九條第一號及第五百六十條ニ依リ執行文ノ付與ヲ得テ強制執行ヲ爲スヘキモノトス(六六號決議)
- 一 執達吏ハ強制執行ノ機關トシテ執行行爲ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ其原動力タル執行名義ヲ所持スルトキハ斷シテ執行ヲ爲サ、ルヘカラス執行ノ當否ニ關スル第三者ノ言ハ之ヲ容ルルヲ要セス(六六號決議)
- 一 所在不明ノ債務者ニ對シ強制執行行爲ニ付テハ總テ送達及通知ヲ爲スニ及ハス但競賣手續開始決定ハ公示送達ヲ爲スヘキモノトス(六七號決議)
- 一 滯納税金ハ強制執行費用ニ對シ先取權ナシ(七〇號決議)
- 一 訴訟費用ナル語ヲ以テ廣義ニ解釋スルトキハ訴訟ニ因テ生シタル總テノ費用ノ謂ニシテ執行費用モ亦此中ニ包含セラルル從テ訴訟費用ノ爲メ中規定シタル民事訴訟法第七十二條以下ノ原則ハ執行費用ニ關シ場合ニ從ヒ適用ス

- ルコトヲ得ヘキモノトス(七一號決議)
- 一 裁判所書記ハ訴訟費用確定決定ヲ相手方ニ送達セサル前ニ於テモ申立人ニ其執行力アル正本ヲ附與スヘキモノトス(七四號決議)
- 一 民事訴訟法第五百十九條末項ニ依リ執行文ヲ附與シタルトキハ證明書ノ外尙ホ執行文ヲ送達スルコトヲ要ス(八二號回答)
- 一 執達吏カ債權者ヨリ強制執行實施ノ委任ヲ受ケ執行ノ結果其占有ニ歸シタル物件ヲ自ラ費消シタルトキハ其損害賠償ハ執達吏ニ於テ之ヲ負担スヘキモノトス(八九號回答)
- 一 和解調書ニ依リ強制執行ヲ爲スニハ和解調書ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス(九三號決議)
- 一 差押物カ不可抗力ニ依リテ滅失シタルトキハ保管者ノ何人タルヲ問ハス其物件ノ所有者タル債務者ノ負担トシ差押物保管中故意又ハ過失ニ因リテ其物ヲ滅失シタルトキハ各其保管者ノ負擔トス但執達吏ノ保管ニ係ルトキハ民事訴訟法第五百三十二條ノ規定ニ依ル(一〇二號決議)
- 一 執達吏ハ職權ヲ以テ競賣期日ノ變更ヲ爲スコトヲ得ヘシ但正當ノ理由ナクシテ期日ヲ變更シタルトキハ之ニ因リテ生シタル費用ハ債務者ノ負担ニ歸ス

- 一 七シムルコトヲ得ス(一〇九號回答)
- 一 執達吏カ職權ヲ以テ競賣期日ヲ變更セサル限りハ差押債權者、執行正本ニ因ル配當債權者及ヒ債務者一同ノ合意ヲ要ス(同上)
- 一 解散後ノ株式會社ノ清算人ニ對スル強制競賣續行ノ申請ハ許可スヘキモノトス(一一七號決議)
- 一 抵當權者カ抵當不動産アルニ拘ハラス其債權ニ基キ他ノ動産ニ對シ強制執行ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者ハ債權者ニ對シ先ツ抵當不動産ニ付キ執行スヘキモノトノ異議ヲ主張スルコトヲ得ス(一六一號決議)
- 一 破産財團ニ屬スル動産不動産ハ民事訴訟法ノ定ムル手續ニ依リテ破産管財人自ラ之ヲ競賣スルコトヲ得ルモノトス(一六八號決議)
- 一 執達吏ノ爲ス強制行為ハ債權者ノ行為ヲ代理スルニアラスシテ執達吏タル職務ヲ執行スルモノナレハ強制執行上受任者タル執達吏ニ過失アルモ委任者タル債權者ハ必スシモ其責ヲ分ツヘキモノニアラス(一六九號判例)
- 一 日清兩國間ニ於テ内國裁判所ノ裁判ヲ清國ニ於テ執行スル事項ニ關シ何等特別ノ條約ナキニヨリ日本裁判所ノ裁判ハ清國ニ於テ之ヲ執行スルニ由ナキモノトス(一七三號判例)

- 一 民事訴訟法第五百二十八條第二項ニ基ク執行文ノ送達ハ裁判所書記ノ作成ニ依ル體本夫以テ裁判所書記之ヲ爲サシムヘキモノトス又此場合ニ於テ執行文ノ文式ハ普通通入場合ト異ナルコトナシ(一八二號決議)更ニ關シ同條ノ民事訴訟法第五百四十五條第三項ノ同時トハ第一審口頭辯論ノ終局前ト解スルニ相當トス(一八六號判例)再行ト受付テハ再行ニ依リテ執行文ノ作成アリ
- 一 民事訴訟法第五百四十五條第三項ノ規定ハ公証人ノ作リタル證書ヲ執行力アリ正本ニ基キテ爲シタル強制執行ニ於ケル請求ニ關シ異議ノ訴ニ付テモ亦適用スヘキモノトス(一八九號判例)再行ト受付テハ再行ニ依リテ執行文ノ作成アリ
- 一 證書作成ノ際支拂テキ金額一定セシテ後日定マルヘキモノナルトキハ所謂一定ノ金額ノ支拂テ目付トスル請求ニ付キ作リタル證書ニテラオハ(同上)再行ト受付テハ再行ニ依リテ執行文ノ作成アリ
- 一 執達吏カ執行行爲ニ付作製スル調書ニ爲ス各關係人ノ署名ハ執行調書ノ成立要件トシテ同調書ノ一要素ニ爲スモノナリ(二〇四號判例)再行ト受付テハ再行ニ依リテ執行文ノ作成アリ
- 一 民法第四百七條ノ規定セル差押カ時効中斷ノ效力ヲ生スルニハ執行ニ着手シ其手續ヲ遂行スルコトヲ要スルモノトス(二〇九號判例)再行ト受付テハ再行ニ依リテ執行文ノ作成アリ
- 一 債權證書ノ如キ債權カ時効ニ罹リテ消滅シタリトノ事由ニ因リテ必スシモ

無効ニ歸スヘキモノニアラス(二四三號判例)

- 一 強制執行ニ依ル動産競賣ノ場合債務者ハ競賣人タルコトヲ得ス(實例)
- 一 差押物ノ引換ヲ爲スコトヲ得ス(同上)
- 一 民事訴訟法第五百五十一條第一號ニ於ケル執行力アル裁判ノ正本トハ執行シ得ヘキ裁判タルヲ認メ得テ於テハ執行文ノ附與アルヲ要セズ(同上)
- 一 民事訴訟法上ハ強制執行又ハ競賣法ニ依リ競賣手續ヲ開始アルヲ要スルニシテ國稅又ハ府縣稅ヲ爲メニ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス寧ロ強制執行手續又ハ競賣手續ヲ續行シ之ニ依リテ其實得金中同額租稅額ヲ引去リ配當スヘキモノト解釋スルコトヲ得(實例)再行ト受付テハ再行ニ依リテ執行文ノ作成アリ
- 一 執達吏カ保管スル豫約金殘額ヲ請求權ハ民法第七十二條ノ二年以時効ニ因リ消滅スルモノニアラス(二六九號決議)
- 一 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル差押ハ他ノ債務者ニ對シテ時効中斷ノ效ナシ(一七五號判例)再行ト受付テハ再行ニ依リテ執行文ノ作成アリ
- 一 競賣期日ノ變更延期等ニ關スル債權者ノ申立又ハ利害關係人ノ合意等ハ執行機關カ競賣期日ヲ變更シ又ハ之ヲ延期スヘキ職務ヲ負フノ原因トナラス執行機關ハ其自由ナル意見ニ從テ競賣期日ヲ變更シ又ハ之ヲ延期スルモノ

トス(松岡法學士ノ説)

一民事訴訟法第五百四十七條ニ規定シタル強制執行ノ停止トハ執行機關カ其執行ヲ一時止息スルコトヲ意味シ又同條ニ規定シタル執行處分ノ取消トハ執行日前ノ結果殊ニ差押ノ効力ノ除去ヲ意味ス故ニ前者ハ執行手續ヲ施行セスト云フニ止マレトモ後者ハ已ニ發生シタル執行上ノ効力ヲモ除去セシムルモノナリ(同上)

一無記名株券ハ民法ニ依ルモ動産ト看做サルヲ以テ動産ニ關スル規定ニ據ルヘキハ勿論記名株券ト雖モ同シク動産ニ關スル規定ニ依ルヘキモノナルヘキハ民事訴訟法ニ於テモ一般有價證券ヲ有体動産ト同一ノ手續ニ依ラシムルヲ以テモ知り得ヘシ(岩田法學士説)

一家屋ノ取除ヲ命シタル判決ニ對シテハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス故ニ債權者ハ民事訴訟法第七百三十三條ニ依ルヘキモノトス(横田法學士説)

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ

爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ

擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ裁判所

ハ賣得金ノ供託ヲ命ズ可シ但シ此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

百四十四條ノ解 疑ニ付テハ賣得金ニ付テハ...

一判決主文ニ明記アル元利金額ニ付キ強制執行ヲ爲スヲ得ヘクシテ記載以外ノ金額ニ付テハ強制執行ヲ爲ス可カラズ(二八號決議)

一債權者カ債務者所有ノ米穀ニ對シ板執行ヲ爲サントシタルニ該米穀ハ既ニ他ノ債權者ニ差押ヘラレタル場合ハ其配當ニ加入スルコトヲ得ス(三六號決議)

一民事訴訟法第五百六十五條ニ所謂第三者トハ單ニ物件ヲ占有セサル第三者ヲ指稱シタルモノナリ(五一號決議)

一甲カ乙ニ對シ執行力アル確定判決ヲ以テ乙ノ財産ヲ差押ヘタルニ丙ナル者甲ニ債權アリトシ債權差押ヲ申請シ債務者及ヒ第三債務者ニ對シ差押命令ヲ適法ニ送達セラレタル場合ニ於テ甲者カ差押命令ニ依リ執達吏ニ對スル委任ヲ取消シタルトキハ格別然ラザレハ差押命令カ強制執行ヲ停止スルノ

效力ナシ而シテ丙ニ於テ己ノ債權ヲ保全セムト欲セハ執達吏ヲ第三債務者ト爲シ賣得金ニ關シ差押ノ手續ヲ爲スヘキモノトス(七五號決議)

一配當要求アリタル場合ハ民事訴訟法第五百六十四條第二項ニ依リ其要求額ニ滿ツルマテ擴張トシテ差押ヲ爲スヘキモノトス(實例)

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債務者ハ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ

執達吏其物ヲ占有シテ之ヲナス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重

大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場

合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキ

業ニ限リ其効力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲ爲スコト得ス

第五百六十九條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

第五百七十條 左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
第一 衣服、寢具、家具及ヒ廚具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル

第二 債務者及ヒ其ノ家族ニ必要ナル一个月間ノ食料

及ヒ薪炭

第三 技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テ其ノ營業上缺ク可カラサル物

第四 農業者ニ在テ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農產物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ欲ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及ヒ名譽ノ證標

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一 係譜

第十二 債務者又ハ其ノ家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコシ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所人特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却スコシ

第五百七十三條 競賣スコキ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條 差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡スコシ若シ執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ

第五百八十一條 支拂皮爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託
 ヲ爲シテ執行ヲ免ルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此
 限ニ在リ
 第五百八十二條 金銀物ハ其金銀ノ實價ヲ以テ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達
 吏ノ許サズ其實價ヲ以テ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達
 吏ノ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スル
 コトヲ得
 第五百八十三條 執達吏有價證券ヲ差押スタルトキハ相場
 アルモノノ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場
 決キ時以テ之ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競買ス可シ其家
 第五百八十四條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ
 買主ノ氏名ヲ書換フ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述
 債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フコトヲ得

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ
 方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ
 其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務
 者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フコトヲ得
 第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ
 競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競
 賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ
 差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲
 スコトヲ許ス
 第五百八十五條 差押債權者ハ執行力アル正本ニ因リ配當
 ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ
 前數條ノ規定ニ依ラズ他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押
 物ヲ賣却ヲ爲スヘキ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ
 民事訴訟法
 三二七

競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命ズルコトヲ得
 第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債
 權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス
 執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ閱覽ヲ
 求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ
 之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付
 シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ
 差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ
 爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ
 前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ
 爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス
 假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セズ
 第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求

ノ効力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキ
 差押ノ効力ヲ生ス
 第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲
 ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當
 ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲ス可キコト
 ヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ相當ノ命令アラシコ
 トヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得
 第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ
 執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコ
 トヲ得
 第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所
 ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選
 定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ
 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アル時キハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ
 債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ
 第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之策ヲ爲スコトヲ得
 第五百九十三條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議

調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ
 數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ
 右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ
 一 株式取引所ノ仲買人ノ見元保証金ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス(一號回答)
 一 配當加入要求ヲ爲スニハ法律上優先債權者ト普通債權者トノ間其區別ナシ(六號決議)
 一 佛像ヲ安置スル厨子ノ如キハ差押フルヲ得ス(八號決議)
 一 配當要求書ハ執達吏宛トナシ訴訟用印紙ヲ貼用スルニ及ハス(一五號決議)
 一 疊建具ハ動産ニシテ家具ト見做スヘキモノナリ依テ家族ニ必要ナルモノハ

- 一 取除キ不必要ト認ムルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得(一八號決議)
- 一 質屋ニ對スル強制執行上執達吏ハ質入主ノ所有ニ屬スル質物ニ對シ強制執行ヲ爲スヲ得ス(二五號決議)
- 一 配當要求ノアリタルコトヲ債務者ニ通知スルハ執行行為ニ屬スルヲ以テ債務者ノ所在不明ナルトキハ通知ヲ必要トセス然レトモ之ヲ以テ債務者カ配當要求セシ債權ヲ認諾シタリト看做スヘキモノニアラス(三六號決議)
- 一 親子其居ヲ異ニシ各獨立ノ生計ヲ爲ス以上ハ親ノ負債ノ爲メニ其子ノ有体動産ヲ差押フルハ不適法ナリ(四三號決議)
- 一 甲債權者債務者ニ對シ差押ヲ爲サントシタルニ其以前差押ヲ爲シタル乙債權者アリ債務者ハ此乙債權者ニ對シ異議ノ訴ヲ提起シ執行停止サレタル場合ニ於テハ甲債權者ハ乙債權者ニ對スル訴ノ完結ヲ俟タサルヘカラス但民事訴訟法第七百五十條ノ規定ヲ準用スルヲ得ス(四八號決議)
- 一 判決確定後ニ仮差押有体動産ヲ競賣ニ付スルニハ更ニ占有若クハ保管ノ手續ヲ爲スコトヲ要セサルモ債權者カ債務者ニ判決ヲ送達シ且執達吏ニ強制執行ヲ委任シテ執行力アル正本ヲ交付シタルコトヲ要ス(五三號決議)
- 一 仮差押ハ配當要求ノ効力ヲ生スルモノトス(五七號決議)

- 一 甲債權者ハ金三千圓ヲ乙債務者丙丁保証人且連帶債務者ニ公正證書ヲ以テ貸與返済期限經過セシテ執行正本ニ基キ甲債權者ハ執達吏ニ委任シテ乙丙丁所有ノ有体動産ヲ差押ヘタリ是ニ於テ丙一人ニテ金三千圓及ビ執行費用トモ全部辨濟シタリ依テ甲ハ丙ノ差押ハ全然解放シ債權証書類ハ悉皆丙ニ交付シタリ此場合丙ハ更ニ執行文ノ附與ヲ受ケテ執達吏ニ委任シ執達吏ハ甲ノ解放申請ニ依リ一應乙丁ノ差押物件ヲ解放シ而シテ丙ハ爲メ更ニ差押ヲ爲スヘキモノトス(一〇六號回答)
- 一 執達吏ハ保証金ヲ徴收スルコトヲ得ヌ又競賣代金多額ニシテ競落期目ノ終ル前ニ支拂ヲ爲スコトノ困難ナル場合ニ於テハ相當ノ猶豫期間ヲ見積リ支拂期日ヲ定メテ之ヲ競賣ノ條件ト爲スコトヲ得(一〇六號回答)
- 一 甲執達吏カ第一債權者ノ爲メニ或物ヲ差押ヘ乙執達吏カ第二債權者ノ爲メニ他ノ物ヲ差押ヘタル場合ニ於テ乙執達吏カ差押調書ト共ニ其差押物ヲ甲執達吏ニ交付スルトキハ甲執達吏ハ第一債權者ノ爲メニ差押ヘタル物ト第一債權者ノ爲メニ差押ヘタル物トハ之ヲ併合シテ換價シ其賣得金ヲ以テ各債權者ノ債權額ノ割合ニ應ジ配當スヘキモノトス(一一二號回答)
- 一 甲執達吏債務者ノ財産差押ヲ爲シタルトキハ債務者ノ財産カ尙ホ第二以下

ノ債權者ノ債權額ニ充ツルト否トヲ問ハス乙丙以下ノ執達吏ハ照査ヲ爲シ
總テ差押調書ヲ甲執達吏ニ交付スヘシ(同上)

一疊建具ハ家屋ノ從物タル場合ト雖モ家屋ト分離シテ差押フルコトヲ得ヘ一
一三號決議)

一民事訴訟法第五百六十六條ニ依リ一旦差押ノ効力ヲ生シタルトキハ其後封
印標目等破滅シタルモ之カ爲メ差押ノ効力ヲ失フモノニ非サルニ因リ其物
ニ對シテ爲シタル後ノ差押ハ無効ナリ(一一五號回答)

一執達吏カ適法ニ有体動産ノ差押ヲ爲シタル以上ハ仮令其占有ヲ失ヒ又ハ封
印等ヲ除却スルコトアルモ尙クモ任意ニ之ヲ爲シタルニアラザレバ差押ノ
効力ハ決シテ消滅スヘキモノニアラス又國稅徵收法第十九條同第二十八條
ハ差押ノ効力ノ存否ノ如キ實質上ノ問題ニ關シテハ何等ノ關係大キ規定ナ
リトス(一一九號判例)

一葉烟草ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス(八五號回答、一五一號決議)

一債務者占有ノ有体動産差押後第三者ノ申立ニ因リ執行停止中ナルニ拘ハラ
ス債權者ヨリ差押解除ノ申出アルトキハ執達吏ハ其差押ヲ解キ物件ハ之ヲ
債務者ニ引渡スヘキモノトス(一二七號回答)

一強制執行停止中ノ差押物件及ヒ差押解除ノ場合ニ於テ物品ヲ債務者ニ交付
スルコト能ハサルカ爲メニ執達吏カ保管ヲ繼續スルトキ其物件カ腐敗又ハ
價格減少ノ虞アル場合ニ於テハ民事訴訟法第五百七十一條ノ規定ニ依リ處
分スヘキモノトス(一二七號回答)

一記名ノ公債証書、市區町村債券若クハ株券ノ類ヲ質權ノ目的ト爲シタル場
合ニ於テハ債權者ハ直接ニ強制執行ヲ執達吏ニ委任シ執達吏ハ差押ヲ爲シ
タル後換價ノ手續ヲ爲スヘキモノトス但差押ヘタル公債証書カ第三者所有
ニ屬スルモノナルトキハ裁判所ハ氏名ノ書換ニ必要ナル陳述ヲ第三者ニ代
ハリ爲ス權利ヲ執達吏ニ付與スルコトヲ得(一三七號決議)

一民法上債權者ト稱スルモノハ皆民事訴訟法第五百八十九條ノ所謂民法ニ從
ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ニ該當スルモノトス(一四三號決議)

一民事訴訟法第五百七十九號「執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ支拂ヲ爲シ
タルモノト看做ス」トノ規定ハ其實得金ヲ以テ數人ノ債權者ヲ満足モシム
ルヲ得サル場合ニ於テモ適用アルモノトス(一四三號判例)

一甲者乙者ニ對シ執行力アル公正契約証書(又ハ判決)ニ依リ乙者ノ財産ヲ差
押ヘタルニ乙者之ヲ不當トシ甲者ニ對シ執行文付與ニ付キ異議申立並ニ執

行停止ノ申請ヲ爲シ裁判所ハ其理由アリトシ執行文ヲ取消シ併セテ執行一時停止ノ裁判ヲ與ヘタリ然ルニ競賣期日切迫メ爲メ其停止命令ヲ執達吏ニ提出スル暇ヲケ執達吏ハ其差押財産ヲ競賣ニ付テ競賣代金ヲ其手ニ保管スル場合ニ於テハ執達吏ハ之ヲ依管シ置キ異議申立ニ對スル決定確定ノ結果ニ依リ處分ヲ爲スヘキモノトス(一四號決議)

一 強制執行上物件カ仮差押ニ係ルトキ又ハ配當要求者ハ債權カ訴訟中ナルトキハ執達吏ハ其得タル賣得金ヲ供託スヘキモノトス(一五三號決議)

一 造石數査定未済ノ醬油ハ醬油稅則第十條等ニ依リ執行ノ目的物トシテ差押及ヒ換價ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス(一六六號回答)

一 烟草專賣法中第三十四條第二項ニ該當スル場合ヲ除外製造烟草ノ所持質入又ハ讓渡ヲ禁スルノ明文ヲキチ以テ官民製菸間ハス何人ト雖モ之ヲ質入シ競賣若クハ競落スルコトヲ得ヘキモノトス(一六七號決議)

一 執達吏カ仮差押トシテ占有スル金錢ニ付テハ民事訴訟法第五百六十七條ノ適用ナシト云フヘカラス(一七三號決議)

一 照査手續ニ因リ差押ヘタル物ノ競賣ハ前ノ差押物ノ競賣ト各別ニ爲スルモノトス前差押物ニ對シ爲シタル配當要求ノ効力ハ後ノ差押物ノ換價額ニモ

及フモノトス(一八六號決議)

一 差押物保存ノ方法宜シキヲ得サルカ爲メニ生シタル損害ノ如キハ債權者ノ行爲ト法律上因果ノ關係ナキモノナレハ債權者ニ對シ之レカ賠償ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス(一九九號判例)

一 民事訴訟法第五百七十五條但書ノ競賣ヲ早ク爲スコトノ合意ハ執達吏カ差押ヲ爲シタル後差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債權者カ執達吏ニ對シ合意ノ申出ヲ爲スヘキモノニシテ強制執行開始前豫メ債權者債權者間ニ於テ合意ヲ爲シタリトスルモ右法條ノ所謂合意トナルヘキモノニアラス次ニ差押後競賣ヲ早ク爲スコトノ合意アリタル場合ト雖モ民事訴訟法第五百七十六條第二項ノ公告ハ必要ニシテ其幾何ノ時間ヲ存スヘキヤハ差押物ノ性質其他ノ事情ヲ斟酌シ適宜定ムヘキモノトス(二二七號回答)

一 債務者甲乙丙三名連帶債務名義ニ基ク假令ハ千圓ノ執行委任ニ因リ先ツ甲ニ對シ差押ヲ試ミタルニ見積額千圓及ヒ執行費用ヲ償フ二十分ナル差押ヲ爲シタル場合ハ最早乙丙ニ對シテハ差押ヲ執行スルコトヲ得サルモノトス(實例)

- 一 有体動産ニ對スル強制執行ヲ爲シ其停止中執達吏カ差押物保存ニ付特別處分ヲ必要トスル場合ニ於テ債權者カ其費用ヲ豫納セサルトキハ執達吏ニ於テ其費用ヲ立替フルコト能ハサル場合ニ限リ解放スルヲ相當トス(實例)
- 一 利札附有價証券ヲ差押ヘタルトキ其利金カ期滿免除ニ罹カラントセル場合強制執行ナルニ於テハ利札ヲ切取り現金ニ替ヘ債權者ニ引渡シ仮差押ナルニ於テハ供託スヘキモノトス(實例)
- 一 配當要求アリタルトキ民事訴訟法第五百九十一條第二項ノ期間内若クハ同第三項ノ債權未確定ノ間ニ於テモ差押ヲ爲スコトヲ得ヘキモ配當要求者カ法定期間内ニ訴ヲ起ササレハ要求ハ其効力ヲ失スルニヨリ競賣期日ハ必ズ右期間ノ經過後ニ定ムルヲ相當トス(實例)
- 一 一百圓ノ債權ニ付キ債務者ノ有体動産見積額百圓ノ仮差押ヲ爲シタルヲ更ニ他ノ債權者ノ委任ニ依リ同一債務者ニ對シ千圓ノ強制執行ヲ爲スニ際シ價格二百圓ノ動産及ヒ仮差押ニ係リタル分トモ併セテ差押ヲ爲シ之ヲ競賣ニ付スルニ至リタルトキハ仮差押債權者ハ賣得金全部ニ對シ配當要求ノ効力アルヘキモノトス(實例)
- 一 執行力アル正本ニ因ル配當要求者トハ照査債權者ノミトス(實例)

一 民事訴訟法第五百七十八條ニ所謂債權者トハ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ其他ノ配當加入債權者ヲモ包含ス(二五九號回答)

一 有体動産ノ強制執行ヲ爲シ競賣代金中債權額及ヒ執行費用ヲ支拂ヒ其剩餘金ヲ債務者ニ還付スヘキ處債務者ノ所在不明ナル場合執達吏ハ右剩餘金ヲ民法第四百九十四條ニ依リ金庫ニ供託スルヲ相當トスヘク從テ右供託金ニ對シテハ保管金規則第一條ヲ適用セラレハキモノトス(二五八號回答)

一金鶏勳章ノ年金ニ對シテハ差押ヲ爲スヲ得ス(二七四號決議)

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第二債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七

條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所
管轄權ヲ有ス

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債
權ノ種類及ヒ數額ヲ開示スヘシ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ
審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押フヘキトキハ裁判所ハ

第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務

者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラザルコトヲ

命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達
シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

差押ハ第二債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノ
ト看做ス

第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權

者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ

記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令

ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得

裁判所ハ義務ヲ負フタル不動産ノ所有者(第二債務者)ニ

差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選

擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ

支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命

令アラシコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令ア

ル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第

二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタル

モ以テ看做ス

第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノ

トス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審

訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過ス

ル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル

部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券

ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第六百四條 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ

債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増

俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス

第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權

者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ

方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立

テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス

可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミ

ヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セ

第六百八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ

第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度竝ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコト

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ

訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條 債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條 債權者ハ命令ニ困リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セララルコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條 差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繋リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困

難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方
法ヲ命スルコトヲ得

債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス
決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制
執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第

第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス
第六百十五條 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債

權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ
右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用

第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立
ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル

保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テハ強制執行ハ不動産ニ對スル強
制執行ニ付テハ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂
ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十八條 左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ヌ
第一 法律上ノ養料

第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因
リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲

メ必要ナルモノニ限ル

第三 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍鑑ノ乗組員ニ

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
 第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一个年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立エテ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ預收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力

アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス

右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ依リ差押ノ効力ヲ生ス

第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ
 第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地在ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添へ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ
訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共

同訴訟人トシテ呼出アラシムコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス効力アリ

第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト

看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

解 疑

一 囚人ノ工錢ハ出獄後就業ニ至ルマテ其生活費用ニ供スルモノナルヲ以テ差押フルヲ得ス(二號回答)

一 勳章ニ附從シタル年金ハ民事訴訟法第六百十八條ニ謂フ恩給ニ包含スヘキモノトス(三號回答)

一 現ニ監獄ニ在リテ他ニ住所ヲ有セサル囚人ノ普通裁判籍ハ監獄所在地ニ依リテ定マル(二三號回答)

一 官廳ニ於テ職權上保管スル金錢物件ハ法律上除外例ナキヲ以テ總テ差押ヲ爲スコトヲ得ヘシ(二〇號回答)

一 仮差押ニ對スル債務者ノ供託証書ハ本差押ノ際執達吏ノ請求アルモノヲ交付シ得サルモノトス(二七號決議)

一 執達吏ノ國庫ヨリ受取ルヘキ立替金ヲ地方裁判所長カ確定シタル金額ニ對シ差押ヲ爲ストキハ仕拂命令官タル地方裁判所長ヲ第三債務者ト爲ス(二九號決議)

一 豫審判事カ押收セル物件ニ對シテ豫審判事ヲ第三債務者トナシ仮差押ノ命令ヲ發スルヲ得ス(三二號決議)

一 債權差押ニ付テノ配當要求ハ執行裁判所ニ爲スヘキモノトス(三八號決議)

一 債權取立ハ其命令ニ依リ債權者躬カラ取立ヲ爲スヘキモノニシテ執達吏ニ委任スヘキモノニアラス又執達吏ハ一己ノ資格ヲ以テ委任スルハ格別執達吏トシテ取立ノ行爲ヲ爲スヘキモノニアラス(四八號決議)

一 判決確定後ニ仮差押債權ノ取立ヲ爲スニハ債權者カ債務者ニ判決ヲ送達シ且差押命令及ヒ取立命令若クハ轉付命令ヲ受ケタルコトヲ要ス(五三號決議)

一 官吏ノ恩給ハ絶對ニ差押フルコトヲ得ス(五五號決議)

一 土地ノミチ賣却シ其地ニ生立スル樹木ヲ所有スル場合債權者之ヲ差押ヘントスルトキハ民事訴訟法第六百二十五條ノ規定ニ依リ差押ヲ爲スコトヲ得(九八號回答)

解 疑

- 一貯蓄銀行ニ對スル預金債權者ハ貯蓄銀行カ供託所ニ預ケ入レタル記名債權
- ニ對シ強制執行ヲ爲スコトヲ得(一一二號回答)
- 一債權及ヒ民事訴訟法第六百二十五條ノ財產權差押後ノ換價命令ヲ以テ執達
- 一吏執達吏ヲ委任スル場合ニ於テ其換價命令ハ所屬區裁判所ノ命令ニ非サル
- ニ執達吏ハ之ニ應シテ競賣スヘシ(一一三號回答)
- 一債權其他ノ財產權ヲ差押ヘタル後ハ配當要求ハ執達吏カ換價ノ委任ヲ受ケ
- 一タル後ハ其執達吏ニ申立ツルコトヲ得(一一三號回答)
- 一競賣法第三十三條ニ依リ競落人ヨリ裁判所ニ支拂ヒタル代金ヲ競賣費用及
- 一七債權者ノ辨濟ニ充テ其殘餘金ヲ債務者ニ交付セサル以前ニ於テ其殘餘金
- 一ノ差押ヲ爲サントスル場合ニ於テハ執達吏ハ普通ノ有體動產差押手續ニ依
- 一リ裁判所ニ該金員ノ提出ヲ請求シテ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ但シ裁判所
- 一ニ於テ其提出ヲ拒ミタル場合ハ民事訴訟法第六百十四條ノ規定ニ從ヒ有體
- 一物ノ引渡ヲ目的トスル債權差押ノ手續ニ據ルヘキモノトス(一二五號決議)
- 一森林ニ對シテハ民事訴訟法第六百二十五條ニ依リ強制執行ヲ爲スヘキモノ
- 一トス(一二五號決議)
- 一假差押仮處分ノ爲メ供託シタル保證物ニ對シテハ供託者ハ國庫ニ對シ供託

- 物返還ヲ求ムル權利ヲ有シ相手方ト供託者トノ間ニハ質權關係ヲ生ス(一
- 六六號決議)
- 一供託者及ヒ其相手方ノ債權者ハ供託ニ關シ債務者ノ有スル債權ヲ差押フル
- 一ニ轉付命令ヲ求ムルコトヲ得ス(同上)
- 一共同礦業權ノ持分ハ民事訴訟法第六百二十五條第一項ニ依リ之ヲ差押フル
- 一コトヲ得ヘク其結果ハ債權者ニ於テ利益ノ配當ヲ受ケ且ツ解散ノ場合ニ殘
- 一餘財產ノ分配ヲ受クルニ至ルヘシ(一七四號回答)
- 一右ノ場合差押ハ他ノ共同礦業權者全員ヲ第三債務者トシテ之ヲ爲スヘキモ
- 一コトヲ得(同上)
- 一債權差押命令ノ申請ト同時ニ轉付命令ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘク此場合ニ
- 一ハ裁判所亦差押命令ト同時ニ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ヘシ(一八二號
- 一決議)
- 一甲債權者ノ爲メニ假差押アリタル債權ハ更ニ乙債權者ノ爲メ之ヲ差押フル
- 一コトヲ得(一八四號決議)
- 一産業組合ニ於ケル組合員ノ持分ハ差押フルコトヲ得(一九一號決議)
- 一電話加入者ノ電話使用權ハ之レ一種ノ財產權ナリト認ムルヲ相當トス(一

一九七號判例) 債權者對債務者之財產有優先受償權(一)
 一 民事訴訟法第六百七條ニ依リ第三債務者カ債務額ヲ供託シタル場合ニ於テハ取立命令ノ效果トシテ供託金ノ上ニ強制執行上ノ權利存續スヘキカ故ニ該供託金ニ對シテハ明治二十六年勅令第二百六十一號第一條第四項ニ依リ更ニ差押命令ヲ發スルコトヲ要セス(二三三號回答)
 一 救恤金ヲ給與シタル無記名ノ國債証券ヲ給付ヲ受クル債權ニ對スル強制執行ハ有体動産給付ノ請求權ニ對シテハ依リテ之レカ執行ニ付テハ引渡命令ニ依ルヘキモノニシテ轉付命令ヲ以テ爲シタルハ無効ナリトス(二三四號回答)
 一 有体動産ノ請求ノ差押ニ付債權者カ取立命令ヲ得タル場合ニ於テモ之カ引渡ハ執達吏ニ對シテ爲スヘキモノトス(二三四號回答) 且ハ債權者ハ該數個ノ引渡命令競合シタル場合ニ第三債務者カ何レニ引渡ヲ爲スヘキヤハ法律上任意タルヘキモノ最初ニ引渡ヲ求メタル執達吏ニ引渡スヲ穩當トス又引渡命令ト取立命令ト競合シタル場合ニ第三債務者ハ取立命令ニ基キ請求シ來リタル執達吏ニ引渡スヘキモノニテ若シ數個ノ取立命令競合シタル場合ニ於テハ最初ニ命令ノ送達アリタル債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡

スヘキモノトス(同上)
 一 有体動産ノ請求ノ差押ハ民事訴訟法第五百九十八條第一項ノ規定ニアル命令ヲ俟テ引渡ノ命令ヲ發スヘキモノニテ差押命令中ニ同時ニ引渡命令ヲモ爲スヲ普通トス(同上)
 一 債權差押ノ競合シタル場合ハ配當要求ノ効力ヲ發生スルモノナルヲ以テ金錢債權ノ差押ナル場合ニ於テハ民事訴訟法第六百二十一條ノ規定ノ準用ニ因リ第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利義務アルモノトス(二三八號回答)
 一 官吏ノ俸給ハ繼續收入ノ債權ニシテ其債權ハ官吏ノ在職ト執務トヲ條件トスルコトハ疑ノ存セサル處ナレトモ斯ル條件ノ存スル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得レトモ之ヲ轉付スルヲ得ストスル法理ナシ(二四六號判例)

第四百款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者等間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ
 元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨
 第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル
 可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ
 配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算
 ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實
 施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ
 呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ
 在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス
 配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閲覽セシムル爲メ遅クト

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ
 從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ
 停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒ
 テ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ
 第六百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未
 タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ
 供託ス可シ
 配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ
 第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チ
 異議ニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムル
 キ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ
 更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セザルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施
ス可シ

第六百三十二條 出頭セサル債權者ハ配當表ハ實施
ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタ
ル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリ
ト認メザルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セザルトキハ異議
ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコ
トヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其
期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラヌ配當ノ實
施ヲ命ス可シ

第六百三十四條 前異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠
リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者
ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ
妨ケラルルコト無シ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配
當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ
屬セザルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁
判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ
第一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之
ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判
ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ
係爭部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ
可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセザルト

「キハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ」

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期

日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨

ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百三十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當

裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ

配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交

付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證

書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權一分ノミハ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正

一本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返

還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金

額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス

可シ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可

シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス

可シ

一 強制執行ヨリ生スル配當要求ニ關シ債權者間ニ於ケル訴訟物トハ賣得金ヨ

リ割配ヘキ配當額ナリ(一一一號決議)

一 先ニ執達吏ノ爲シタル配當ニ満足セサル債權者ニシテ誤謬又ハ違算等ヲ發

見シ執達吏ノ配當計算ヲ正當トシ債權者間ニ協議纏リタルヲ以テ執行裁判

解 疑

三六三

所ノ配當實施ニ先チ便宜上執達吏ニ於テ配當アリタキ旨申請シタルトキハ
 一 執行裁判所ハ其申請ヲ認許スルモ差支ナキモノトス(八〇號決議)
 一 不動産競賣事件ニ付登記ヲ受ケタル不動産上ノ權利者ハ別ニ配當要求ノ手續ヲ爲サ、レモ當然配當ヲ受ケルコトヲ得(一一五號決議)
 一 強制執行ニ因ル不動産競賣代金ヲ配當スルニ當リ剩餘金ヲ生シタルニ依リ債務者ニ交付スヘキ場合ニ於テ債務者カ配當期日ニ出頭セサルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得ス(一一五三號決議)
 一 照査手續ヲ爲シタルトキハ各債權者ハ差押物件全体ノ換價額ヨリ各自債權額ノ配當ヲ受ケヘキモノトス(一八一號決議)
 一 有体動産ノ強制執行ニ於テ賣得金ヲ配當スルニ當リ仮差押ノ債權又ハ民事訴訟法第五百八十九條ノ配當要求ニシテ債務者ノ認諾セサル債權アル場合ハ仮令債權者間ニ於テ未確定ノ債權ニ對スル配當額ヲ供託シ其餘ヲ配當スルノ協議調フタリトスルモ執達吏ハ民事訴訟法第五百九十三條ニ依リ賣得金又ハ差押現金ノ全部ヲ供託シ執行裁判所へ事情屬ヲ爲スヘキモノトス(實例)
 一 執達吏ノ保管スル豫納金ニシテ債務者ニ還付スルコト能ハサルモノハ民法

第四百九十四條ニ依リ供託ヲ爲スヲ相當トスヘク又該供託金ノ時効ハ民法ノ規定ニ依ルヘキモノトス(二八〇回答)

第六節 不動産ニ對スル強制執行ノ手續及具附スル書類

第二款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

第二 強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其

不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スル者キテ第二
第十六條ノ規定ヲ適用スルニ際スルハ其不建
強制執行ハ申立ニ依リテ裁判所之ヲ爲ス

一出征軍人ニ對スル不動産競賣ハ其開始決定ノ送達アルマテハ手續ヲ進行ス
ルコトヲ得ス(一六八號決議)

一礦業權ノ強制執行ハ民事訴訟法上不動産トシテ強制競賣ヲ爲スチ相當トス

(一七三號決議)

第三款 強制競賣

第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スル

コトヲ要ス

第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第三 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル正定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ

添附ス可シ

第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所

第三 有タルコトヲ證ス可キ證書

第三 所在地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若ク

第五 坪數、土地臺帳ニ登録シタル地價及ヒ其地所ニ付

キ納ム可キ一个年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建

民事訴訟法

第四 坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一十年ノ公課ヲ證ス可
 キ證書
 第五 地所、建物ニ付キ借貸借アル場合ニ於テハ其期限
 第三 並ニ借貸ヲ證ス可キ證書
 第二 號、第三 號及ヒ第四 號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ
 主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得
 第四 號及ヒ第五 號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權
 者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ
 得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サ
 強シム可シ
 強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執
 行記録ニ第一 號乃至第五 號ノ要件ヲ記載セザルモ有ル
 トキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニ以同時ニ債權者ノ
 爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ
 差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケ
 差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ依リ其效力ヲ生ス此
 送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル
 不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲ス
 右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生
 シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルモ第六
 百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限りハ開始決定ヲ受
 ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用
 第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所
 所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ
 テ執行裁判所ニ之ヲ爲スコシ

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得
 第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリ
 タルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ヲ依ラスシテ配當ヲ要求スル債權者又ハ
 トキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債
 權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ
 債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキ
 第六百四十八條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ

對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條 左ニ掲タル者又競賣手續ニ於テ利害關
 係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ヲ依リ配當ヲ要
 求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録
 ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル
 不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ
 以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非ザレハ賣
 却ヲ爲スコトヲ得ス

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ依リテ消滅ス(民法施行法第五十一條ヲ以テ改正)

第

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス(同上)

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス(同上)

第六百五十條

權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキ

ト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ
競賣申立ノ取下ニ依リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百五十二條

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ依リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコ

民事訴訟法

三二三